

陸前高田市文化財調査報告第15集

門前貝塚発掘調査概報

— 県道広田半島線の改修に伴う緊急発掘 —

平成3年3月

岩手県大船渡土木事務所
陸前高田市教育委員会

陸前高田市文化財調査報告第15集

門前貝塚発掘調査概報

— 県道広田半島線の改修に伴う緊急発掘 —

発刊にあたり

門前貝塚は、明治33年日本考古学会において、岩手県沿岸及び気仙地区で最初に認知された記念すべき貝塚であります。この地域は縄文時代を知る上で重要な地域となっております。

門前貝塚は、縄文時代後期初頭の標式遺跡となっており昭和29年に盛岡市中央公民館によって発掘調査が行われ、その際に出土した縄文時代後期の土器に「門前式土器」と命名されております。標式遺跡は考古学上重要であり、その知名度は全国的なものとなっております。

今回の調査は、県道広田半島線の改良整備路線に門前貝塚が所在し、平成元年11月岩手県から発掘調査の委託を受け、大船渡土木事務所と調整をはかる一方、岩手県教育委員会文化課の指導を受けながら調査を行ってきているものであります。門前貝塚からは「弓矢」の形をした配石遺構など縄文時代後期の遺物が数多く発見されております。

門前貝塚の発掘調査は、もう少し続き、現在は途中でありますが、これまでの調査の成果を概要としてまとめましたので、地域の方々や研究者の方々にご活用いただきますと共に文化財愛護思想の普及、啓蒙に役立てば幸いに存じます。

この調査に際しまして、常にご指導、ご協力をいただきました岩手県教育委員会文化課と地域の方々並びに作業に従事してくださった多くの方々に厚く御礼を申し上げます。また、学問的見地からご教示を賜りました名古屋大学教授、渡辺先生をはじめ諸先生方に対し、深く感謝を申し上げますと共に今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成3年3月

陸前高田市教育委員会
教育長 大澤太郎

例　　言

- 1 本書は、岩手県陸前高田市小友町字門前地内に所在する門前貝塚の発掘調査概報である。
- 2 調査は、県道広田半島線の改修に伴う事前の緊急発掘で、大船渡土木事務所より依頼を受け、陸前高田市教育委員会社会教育課が担当した。調査期間、調査体制は次のとおりである。

調査期間	1989年11月 1日～1989年12月 6日
	1990年 3月19日～1990年12月17日
- 團　長　　陸前田市教育委員会教育長　　大澤太郎
- 總　括　　陸前高田市教育委員会社会教育課長　佐々木幸雄
- 事　務　局　同　課長補佐　村上安見　　同　主事　吉田功
　　　　　　同　臨時職員　金野妙子
- 調　　査　員　陸前高田市立博物館学芸員　佐藤正彦
- 3 調査及び整理に際しては、次の方々のご指導、ご助言を賜った。（順不同、敬称略）

名古屋大学教授　渡辺誠	国立歴史民俗博物館助教授　西本豊弘
岩手県教委文化課文化財主査　高橋信雄	岩手県教委文化課文化財主査　佐々木勝
岩手県立博物館主任専門学芸員　熊谷常正	札幌医科大学解剖学第二講座助手　松村博文
市立広田小学校校長　細谷英男	市立矢作小学校校長　菅原弘太郎
埋文センター主任専門調査員　小田野哲憲	大船渡市立博物館学芸員　金野良一
県立広田水産高等学校教諭　遠藤勝博	陸前高田市立博物館館長　菊池苞
陸前高田市立博物館主事　中山雅之	岩手考古学会員　熊谷賢
- 4 資料整理、概報の作成については、次の方々の御協力をいただいた。（敬称略）

青山道子　上野立子　及川トシ子　及川敏江　及川則子　小山典子　菅野春子　黄川田澄子
金野留美　熊谷和美　後藤悦子　紺野志賀子　佐々木俊子　佐々木静子　佐藤たみ子
佐藤とも子　佐藤アサ子　佐藤ヤス子　佐藤紀代子　佐藤多恵子　高橋真理　千葉たか子
千葉カズ子　鳥羽攝　畠山園枝　松田啓司　村上美代　村上武也　村上豊繁　村上典子
吉田ルリ子
- 5 本概報の執筆は、調査経過を佐々木幸雄、他を佐藤正彦が分担して行った。
- 6 掲載した土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著「新版標準土色帖」第4版によった。

目 次

発刊にあたり

例言

目次

I 調査に至る経過.....	1
II 遺跡の立地と地形.....	5
1、遺跡の位置と地形.....	5
2、基本層序.....	5
III 発見された遺構.....	8
1、フラスコ型・ビーカー型・皿型ピット.....	8
D 8-11・H 8-14・C 9-1 ピット.....	8
F 9-1・F 9-2・H 9-1・A10-1・B10-1 ピット.....	10
C10-1・D10-1・D10-2・D10-3 ピット.....	13
D10-4・F10-1・B11-1・C11-1・C11-2 ピット.....	15
D11-1・E11-2・E11-3・E11-4 ピット.....	17
G11-1・B12-1・B12-2・C12-1 ピット.....	19
C12-2・C12-3・C12-4・F12-1	22
F12-2 ピット・G12-1・B13-1・C13-1・C13-2	25
D13-1 ピット・D13-2・E13-1・E13-2・F13-1 ピット.....	27
F13-2・F13-3・F13-4・G13-1	28
G13-2 ピット・G13-3・G13-4・C14-1・D14-1	31
D14-2 ピット・E14-1・E14-2・F14-1・F14-2	33
F14-3 ピット・F14-4・F14-5・G14-1・D15-1 ピット.....	35
D15-2・E15-1・E15-2・E15-3 ピット.....	37
E15-4・F15-1・F15-2・C16-1・D16-1 ピット.....	39
E16-1・D17-1 ピット.....	41
2、柱状穴群.....	41
3、配石遺構.....	41
4、焼土遺構.....	46
IV 発見された遺物.....	46
Vまとめ.....	48

挿 図 目 次

第1図 岩手県図.....	2
第2図 門前貝塚位置図.....	3
第3図 門前貝塚地形図.....	4
第4図 土層柱状図.....	6
第5図 遺構配置図.....	7

第6図	D 8 - 1 • H 8 - 14 • C 9 - 1 ピット	9
第7図	F 9 - 1 • F 9 - 2 ピット	11
第8図	H 9 - 1 • A10 - 1 • B10 - 1 ピット	12
第9図	C10 - 1 • D10 - 1 • D10 - 2 • D10 - 3 • D10 - 4 ピット	14
第10図	F10 - 1 • B11 - 1 • C11 - 1 ピット	16
第11図	C11 - 2 • D11 - 1 • E11 - 2 • E11 - 4 ピット	18
第12図	E11 - 3 • G11 - 1 • B12 - 1 ピット	20
第13図	B12 - 2 • C12 - 1 • C12 - 2 ピット	21
第14図	C12 - 3 • C12 - 4 • F12 - 1 ピット	23
第15図	F12 - 2 • G12 - 1 • B13 - 1 ピット	24
第16図	C13 - 1 • C13 - 2 • D13 - 1 • D13 - 2 ピット	26
第17図	E13 - 1 • E13 - 2 • F13 - 1 • F13 - 2 • F13 - 3 • F13 - 4 ピット	29
第18図	G13 - 1 • G13 - 2 • G13 - 3 • G13 - 4 ピット	30
第19図	C14 - 1 • D14 - 1 • D14 - 2 • E14 - 1 ピット	32
第20図	E14 - 2 • F14 - 1 • F14 - 2 • F14 - 4 ピット	34
第21図	F14 - 3 • F14 - 5 • G14 - 1 ピット	36
第22図	D15 - 1 • D15 - 2 • E15 - 1 • E15 - 3 • E15 - 4 • F15 - 1 ピット	38
第23図	E15 - 2 • F15 - 2 • C16 - 1 • D16 - 1 ピット	40
第24図	E16 - 1 • D17 - 1 ピット及びE 7 集石	42
第25図	柱穴状ピット群	43
第26図	弓矢状の配石	45
第27図	E 9 大型礫・I 9 - 2 燃土遺構	47

写 真 図 版

第1図	発掘区遠景・遺構検出状況	51
第2図	D 8 - 11 • H 8 - 14 • C 9 - 1 • F 9 - 1 • F 9 - 2 • H 9 - 1 • A10 - 1 • B10 - 1	52
第3図	C10 - 1 • D10 - 1 • D10 - 2 • D10 - 3 • D10 - 4 • F10 - 1 • B11 - 1 • C11 - 1 • C11 - 2	53
第4図	D11 - 1 • E11 - 2 • E11 - 3 • G11 - 1 • B12 - 1 • B12 - 2 • C12 - 1 • C12 - 2	54
第5図	C12 - 3 • C12 - 4 • F12 - 1 • F12 - 2 • G12 - 1 • B13 - 1 • C13 - 1 • C13 - 2	55
第6図	D13 - 1 • D31 - 2 • E13 - 1 • E13 - 2 • F13 - 1 • F13 - 2 • F13 - 3 • F13 - 4	56
第7図	G13 - 1 • G13 - 2 • G13 - 3 • G13 - 4 • C14 - 1 • D14 - 1 • D14 - 2 • E14 - 1	57
第8図	E14 - 2 • F14 - 1 • F14 - 2 • F14 - 3 • F14 - 4 • F14 - 5 • G14 - 1 • D15 - 1 • D15 - 2	58
第9図	E15 - 1 • E15 - 2 • E15 - 3 • F15 - 1 • F15 - 2 • C16 - 1 • D16 - 1 • E16 - 1	59
第10図	D17 - 1 ピット • 柱穴状ピット群 • E 7 集石 • E 7 - 1 ピット • 弓矢状配石 E 9 大型礫・I 9 - 2 燃土遺構	60

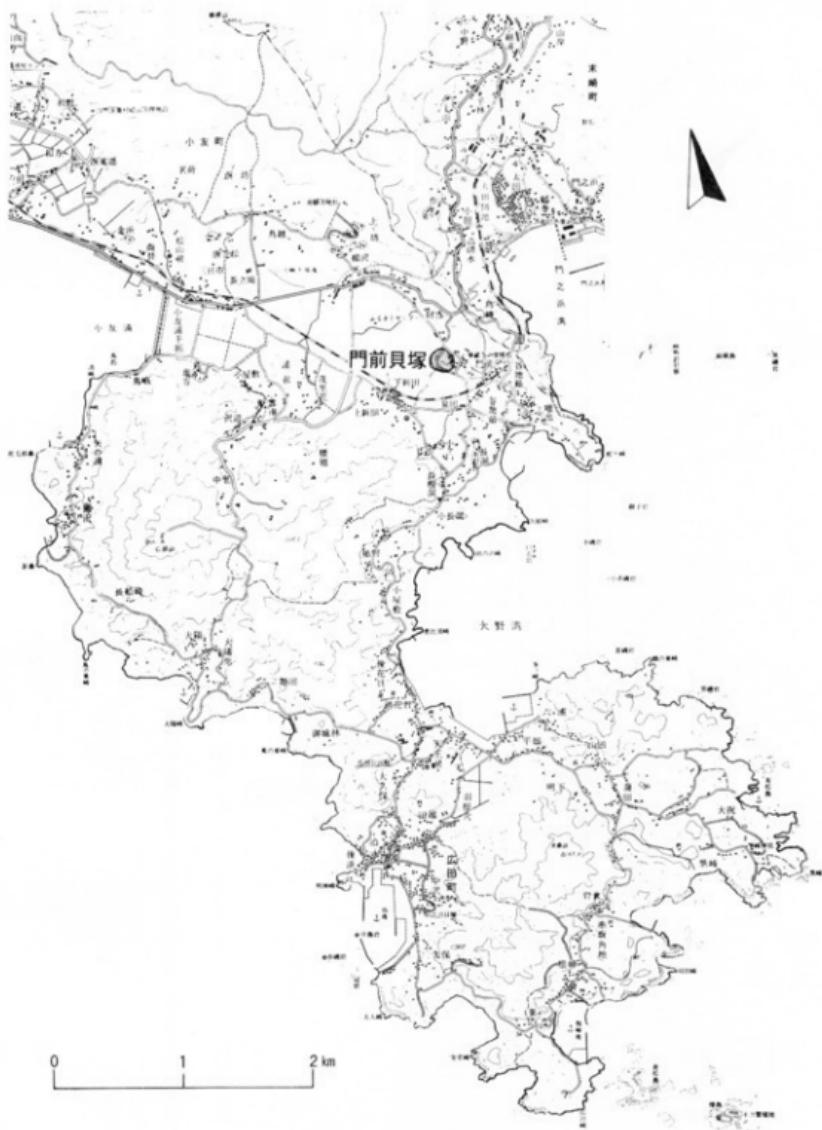
I 調査に至る経過

- 平成元年3月 県道広田半島線は小友町門前貝塚を縦断しているが、地域住民の生活主要道路として利用されている。そのため道路の改良が地区住民の永年の要望であったことから、緊急地方道整備工事が施行されることに伴い岩手県大船渡土木事務所長より当教育委員会に発掘調査依頼申し出があった。
- 平成元年4月20日 埋蔵文化財発掘の通知が岩手県知事から提出があった。
- 平成元年5月26日 岩手県教育委員会教育長より発掘調査通知があった。同日大船渡土木事務所と調査について協議した。
- 平成元年6月14日 現地にて大船渡土木事務所長と調査方法等について確認した。
- 平成元年10月9日 大船渡土木事務所長より門前貝塚発掘調査依頼があった。
- 平成元年10月13日 岩手県教育委員会教育長へ埋蔵文化財発掘調査の通知をした。
- 平成元年11月1日 大船渡土木事務所長と発掘調査委託契約を締結し同日より調査を開始した。
- 平成元年11月21日 岩手県教育委員会事務局文化課から調査方法等について現地指導を受けた。
- 平成2年4月1日 調査未了分について、大船渡土木事務所長と発掘調査委託契約を締結した。同日より平成2年度分の調査を開始した。
- 平成2年度において札幌医科大学松村博文先生、岩手県教育委員会事務局文化課文化財主査佐々木勝先生、国立歴史民俗博物館助教授西本豊弘先生、名古屋大学文学部教授渡辺誠先生の指導を受けた。
- 平成2年12月20日 地元からの要望により、検出した遺構のうち弓矢状配石、大型躰、フ拉斯コ型ピット等、埋め戻し保存を決定した。
- 平成3年3月31日 県道広田半島線緊急地方道整備工事に伴う門前貝塚発掘調査の平成元年度及び平成2年度分の調査結果はこの概報のとおりである。

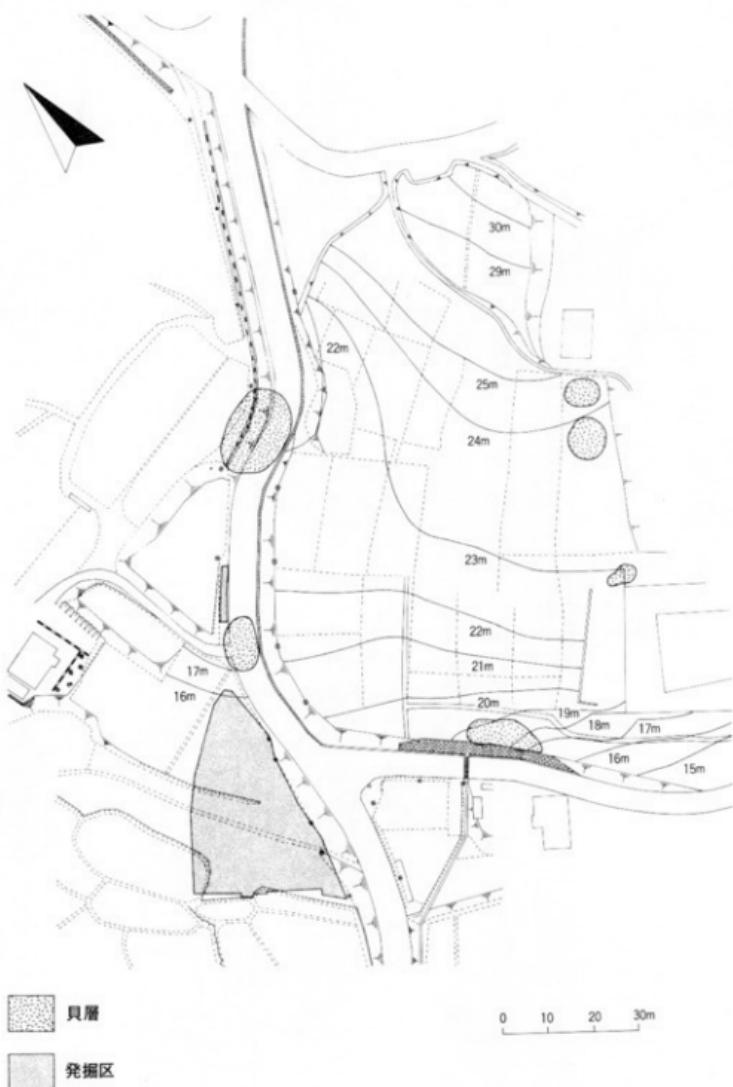
社会教育課長 佐々木 幸 雄



第1図 岩手県図



第2図 門前貝塚位置図



第3図 門前貝塚地形図

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と地形（第1～3図・写真図版第1図～4）

門前貝塚は、岩手県陸前高田市小友町字門前地内に所在し、JR大船渡線小友駅より北東へ約500mの地点に位置している。

陸前高田市は、岩手県の東南端、東経 $141^{\circ}44'$ ～ $141^{\circ}28'$ 、北緯 $38^{\circ}56'$ ～ $39^{\circ}07'$ の範囲に位置し、宮城県に隣接している。市境は、南は宮城県本吉郡唐桑町及び気仙沼市と、西は岩手県東磐井郡大東町、北は同気仙郡住田町、東は同大船渡市と隣接し、東南は太平洋に面している。

地勢を概観すると、周辺の海岸線は、リアス式海岸特有の複雑な海岸線をなし、本市においては市域の東側に位置する広田半島が南東方向の大西洋に大きく突き出し、西方には、湾口部約3.5km、湾奥まで約7kmの逆U字状の広田湾を形作っている。この広田湾の湾奥部には、住田町北境の土倉岬に源を発し、北上山地の山並みをぬうように南流する総延長40kmの気仙川が注ぎ、河口付近には沖積層の低地帯を作り、現在では市街地が形成されている。市街地の後背には北上山地の東南部にあたる氷上山(874.7m)、箱根山(446.8m)、原台山(897.7m)などの起伏量の少ない山々がそびえ、場所によっては緩やかな斜面が海岸線までせり出している。

遺跡は、市街地東部の大船渡市との境界にそびえる箱根山(446.8m)より東南方向に張り出す丘陵の先端部の西側小丘陵上に位置している。その前面には、広田半島とを区切るように、北西から南東方向に広がる幅500m、長さ3km程の標高7m以下の沖積部の低地帯が広がっている。低地帯は現在では水田、畠地に利用されているが、この沖積部には、ヨシ等の植物遺存体が多量に埋没しており、縄文時代においては遺跡の前面まで海が湾入りし、広田半島は島であったと考えられている。

遺跡の載る小丘陵は、標高8～25mである。縄文時代における集落は、標高20～25mの南北130m・東西100mの平坦面に埋蔵しているものと予想され、貝塚は平坦地の周縁を巡るように6ヶ所点在している。土地の利用状況は畠地、水田、宅地、県道である。

調査は、遺跡の西側の、県道広田半島線の下側斜面の標高9mから16mの地点をおこなった。該区は、昭和29年吉田義昭氏によって調査された第5号貝塚の西側斜面に位置する地点である。

（1960年：吉田）調査期間は、第一次が1989年11月1日から1989年12月6日、第二次が1990年3月19日から1990年12月17日で、調査面積は約1000m²である。

2 基本層序（第4図）

発掘区は、遺跡の西側の標高9mから16mの斜面に位置している。そのため、斜面の上位では土の流失が著しく、地山面までの層厚が20cm程度と浅く、比較的単純な層の堆積状況を示し

ている。これに対し下位においては、上位からの土の堆積により地山面までの層厚が最大3mと非常に厚く、複雑な堆積状況をなしているが、概括するとV層に大別される。基本的な層区分は以下のとおりである。

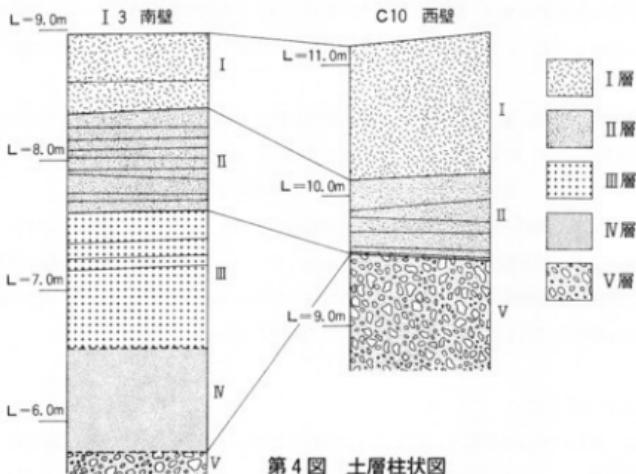
第Ⅰ層 表土ないし耕作土。斜面の上位では層厚10~20cmであるが、下位では上位からの土の堆積により最大厚1mに達する地点もみられる。色調はにぶい黄褐色から褐色で、粘性はなく、まさを多く含んでいる。遺物は、石器・土器細片を多量に含む。

第Ⅱ層 斜面の中位から下位にかけて分布する。配石遺構の検出層で、土器・土製品・石器などの遺物が多量に出土した。色調は黒褐色から黒色で、粘性はなく、まさを含みバサバサしている。最大厚は80cm程度である。

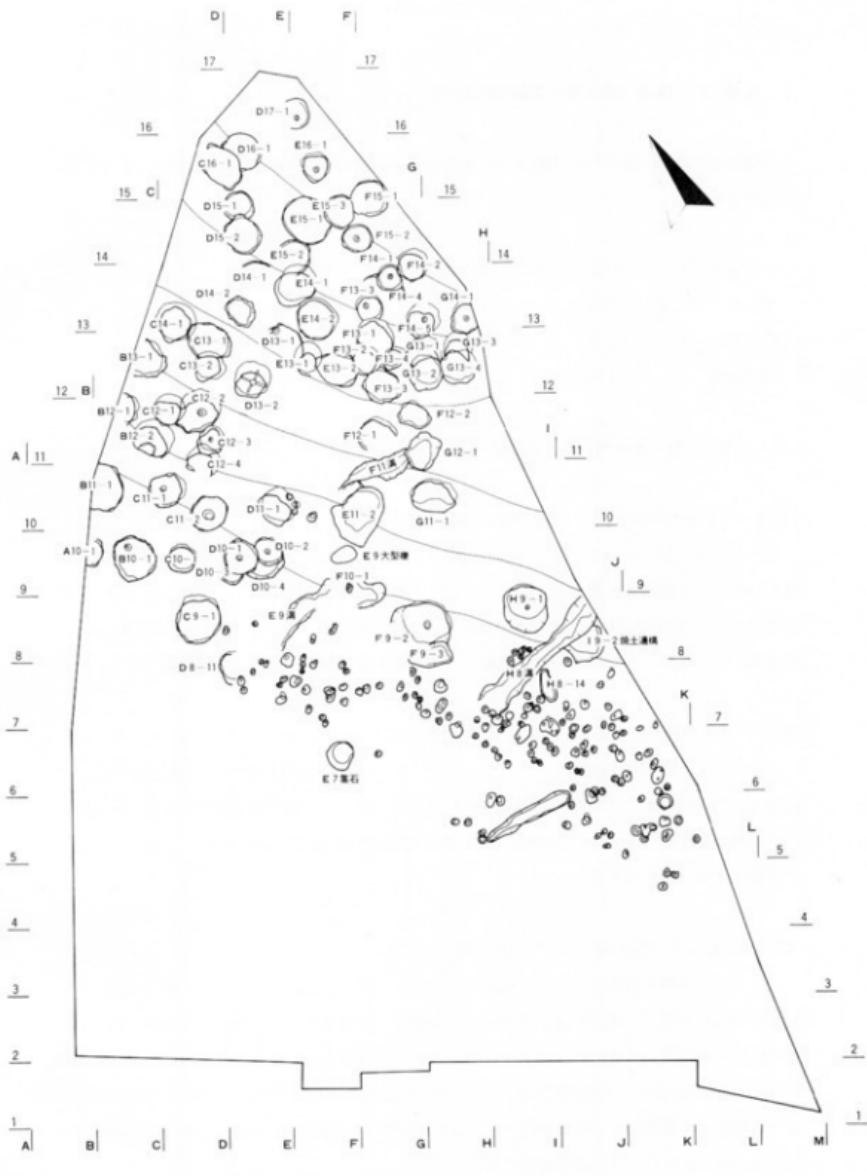
第Ⅲ層 斜面の中位から下位にかけて検出した。下位ではグライ化しており、湧水が著しい。柱穴状ピットの検出層である。遺物は、土器・石器が多量に出土し、若干であるが骨角器や動物遺存体も出土している。色調は黄褐色から灰白色を呈しており、概してシルト質の層であるが、部分的に砂の層も見られる。層厚は、最大厚1m程度である。

第Ⅳ層 無遺物層で、フラスコ型ピットの検出層である。斜面の上位では層厚10cmと非常に浅いが、下位では最大厚70cm程度である。色調は、黄褐色・黒色があり、黄褐色土は斜面の上位から中位に、黒色土は斜面の下位に発達している。湧水が著しい。

第V層 地山である。花崗岩の基盤で、フラスコ型ピットの検出層である。湧水が著しい。



第4図 土層柱状図



第5図 遺構配置図

II 発見された遺構（第5図・写真図版第1図-5）

発掘調査の結果、縄文時代中期末から後期前葉の遺構が多数発見された。その概要は下記のとおりである

フラスコ型ピット	58基	皿型ピット	8基
ビーカー型ピット	5基	溝	3条
柱穴状ピット	164基	配石遺構	1群
埋甕遺構	1基		

1 フラスコ型・ビーカー型・皿型ピット

D 8-11ピット（第6図-1, 写真図版第2図-1）

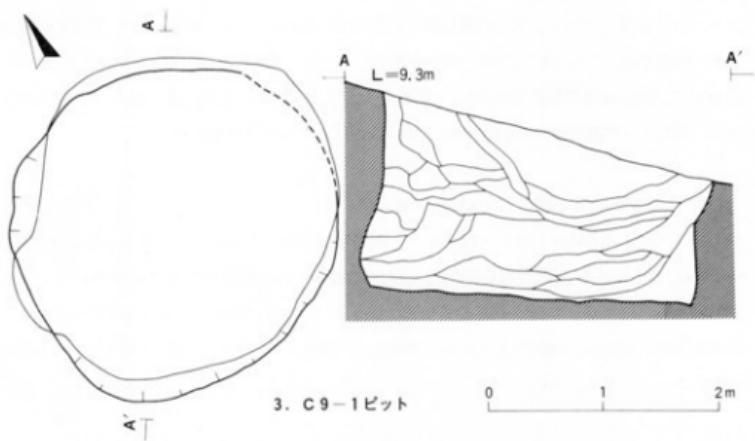
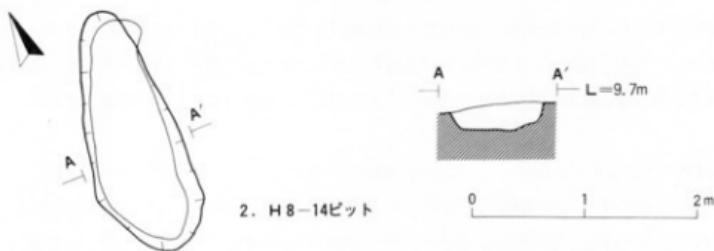
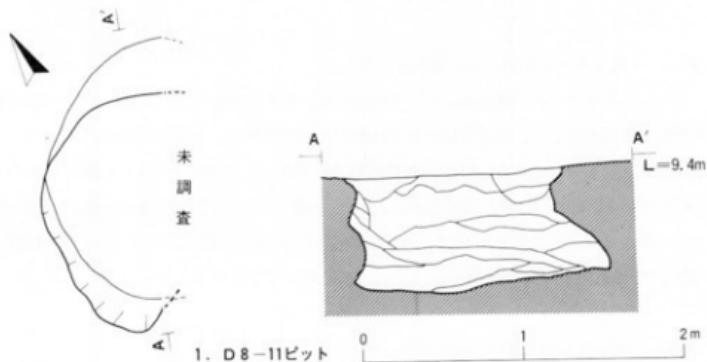
C 7・C 8・D 7・D 8 グリッドの地山面において検出した。C 9-1 ピットの南側1mの地点にある。東側半分が発掘時におけるトレンチのため破壊されている。平面形は不明で、断面形は、開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈しており、北壁最深部で106cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・褐色土で16層からなり、自然堆積である。

H 8-14ピット（第6図-2, 写真図版第2図-2）

H 8 グリッドの4層上面において検出した。I 9-2 ピットより西へ1mの地点にある。平面形は、楕円形を呈し、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部径長軸110cm土・短軸40cm土、底部径長軸100cm土・短軸34cm土で、深さは北壁最深部で30cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土で一層からなる。

C 9-1 ピット（第6図-3, 写真図版第2図-3）

C 9 グリッドの4層上面において検出した。D 8-11 ピットより北へ1mの地点に位置する。平面形は円形を呈し、断面形は、南西壁では中位で一度締まり、中位から底部にかけて直壁し、北東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈し底部付近で締まっている。規模は、開口部径215cm土・底部径219cm土で、深さは北壁最深部で149cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・灰黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐灰色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で23層からなり、人為的な堆積である。



第6図 D 8-11・H 8-14・C 9-1ピット

F 9-1 ピット（第7図、写真図版第2図-4）

F 9・G 9グリットの地山面において検出した。F 9-2 ピットによって南壁が切られる。平面形は楕円形を呈し、断面形は北壁では頸部で一度締まり、頸部から底部にかけて抉りのあるラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径34cm±・底部径25cm±・深さ4cm±の小穴を有している。規模は、開口部径長軸281cm±・短軸190cm±、底部径長軸260cm±・短軸185cm±で、深さは北壁最深部で162cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・暗褐色土・褐色土で58層からなり、自然堆積である。一部、壁の崩落土がみられる。

F 9-2 ピット（第7図、写真図版第2図-5）

F 7・F 8・G 7・G 8グリットの4層上面で検出した。F 9-1 ピットを切る。平面形は楕円形を呈し、断面形は南壁ではなだらかに傾斜しており、北壁では抉りがみられラスコ状を呈している。規模は、発掘時における掘り過ぎのため不明である。残存する壁高は65cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・暗褐色土の9層からなり、自然堆積である。

H 9-1 ピット（第8図-1、写真図版第2図-6）

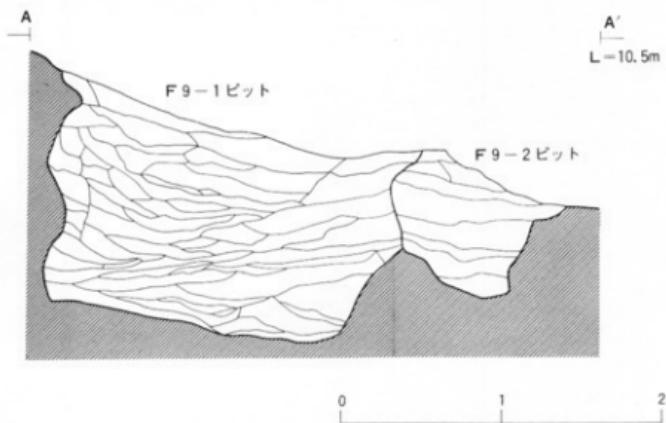
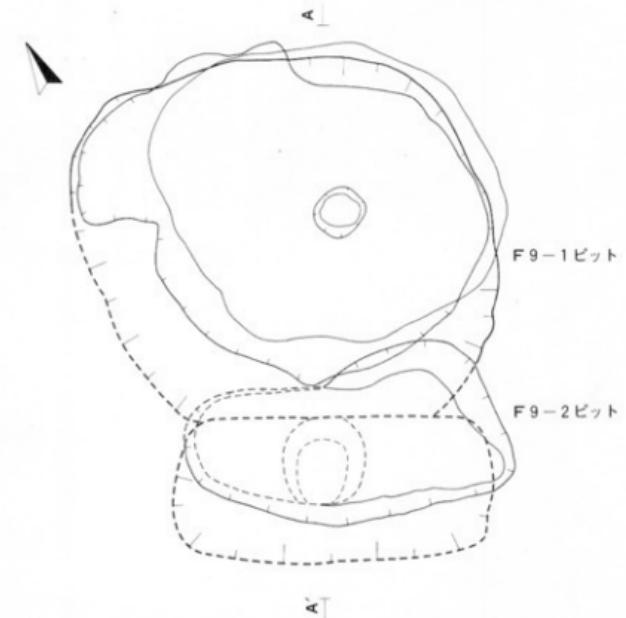
H 9・H 10グリットの地山面で検出した。H 8-14 ピットより北へ1.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は、東壁と西壁では開口部から中位にかけてゆるやかに傾斜し、中位から底部にかけて直壁状に立ち上っている。北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるラスコ状を呈している。底面の南壁寄りに開口部径長軸43cm±・短軸22cm±、底部径長軸28cm±・短軸15cm±、深さ10cm±の小穴を一基有している。規模は、開口部径223cm±・底部径180cm±で、深さは北壁最深部で161cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で30層からなり、すべて自然堆積である。

A10-1 ピット（第8図-2、写真図版第2図-7）

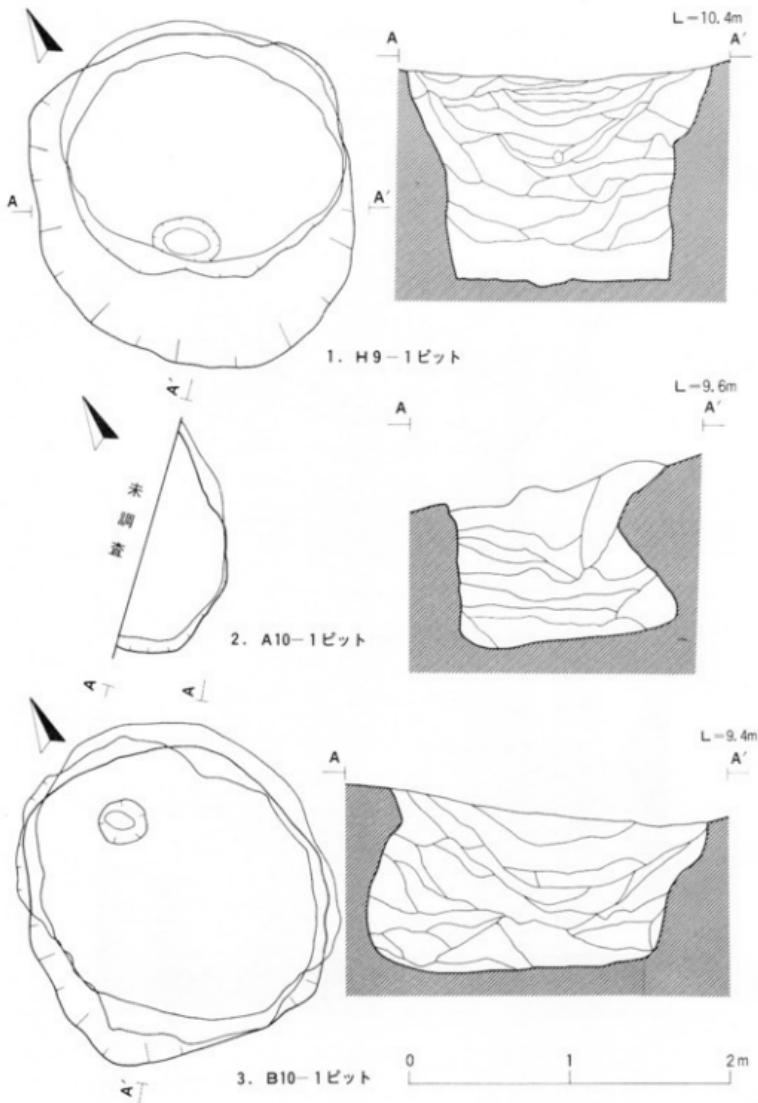
A10グリットの地山面において検出した。%は未調査区へと広がる。B10-1 ピットより西へ0.5mの地点にある。平面形は不明で、断面形は西壁では直壁ぎみに立ち上り、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるラスコ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で61cm±を測る。埋土は、黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土で12層からなり、自然堆積である。

B10-1 ピット（第8図-3、写真図版第2図-8）

B10グリットの4層上面において検出した。C10-1 ピットの北西0.5mの地点にある。平



第7図 F9-1・F9-2ピット



第8図 H9-1・A10-1・B10-1ピット

面形は円形を呈し、断面形は、南西壁では比較的ゆるやかな傾斜で立ち上がり、北東壁では頸部で一度締まり、頸部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈し、底部付近では丸みを帯びている。底面の北壁寄りに、開口部径30cm土・底部径20cm土・深さ7cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径196cm土・底部径240cm土で、深さは北壁最深部で122cm土を測る。埋土は、灰黄褐色土・にぶい黄褐色土・黄褐色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で25層からなり、下位は人為的な堆積である。

C10-1 ピット（第9図-1、写真図版第3図-1）

C10グリットの4層上面において検出した。B10-1ピットより東へ0.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径120cm土・底部径122cm土で、深さは北壁最深部で77cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・暗褐色土・褐色土・黒褐色土で14層からなり、自然堆積である。

D10-1 ピット（第9図-2、写真図版第3図-2）

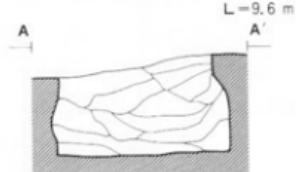
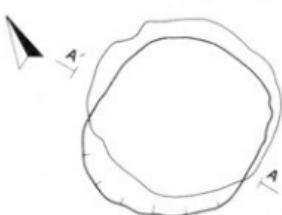
C10・D10グリットの地山面において検出した。西壁は、D10-3ピットによって切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径28cm土・底部径13cm土、深さ11cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径165cm土・底部径165cm土で、深さは北壁最深部で111cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土・暗褐色土で42層からなり自然堆積である。

D10-2 ピット（第9図-2、写真図版第3図-2）

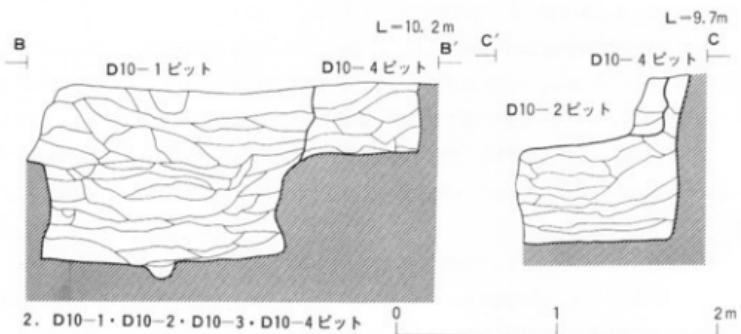
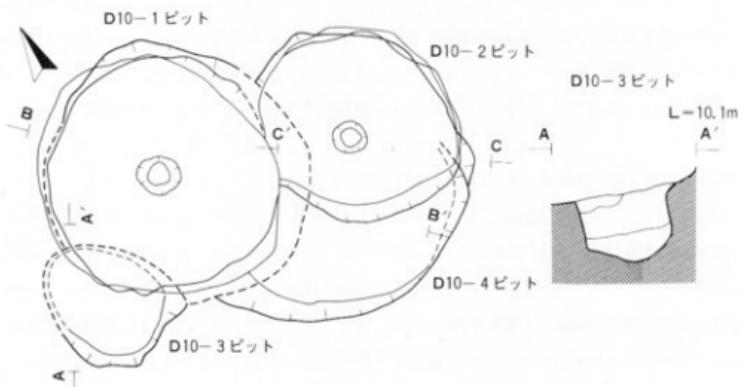
D10グリットの地山面において検出した。D10-1ピットによって西壁を、D10-4ピットによって南壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径22cm土・底部径18cm土、深さ14cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径135cm土・底部径130cm土で、深さは北壁最深部で118cm土を測る。埋土は、黄褐色土・褐色土・暗褐色土で16層からなり自然堆積である。

D10-3 ピット（第9図-2、写真図版第3図-3）

C10・D10グリットの地山面において検出した。D10-1ピットの西壁を切る。平面形は不明で、断面形は壁がほぼ直壁状に立ち上がりビーカー状を呈している。規模は、東壁最深部で28cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・暗褐色土で3層からなり自然堆積である。



1. C10-1 ピット



第9図 C10-1・D10-1・D10-2・D10-3・D10-4 ピット

D10-4 ピット（第9図-2, 写真図版第3図-4）

D10グリットの地山面において検出した。D10-1ピットによって北壁を切られ、D10-2ピットの南壁を切る。平面形は不明で、断面形は東壁では直壁状に立ち上がりビーカー状を呈している。規模は、南壁最深部で23cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・にぶい黄橙色土で9層からなり自然堆積である。

F10-1 ピット（第10図-1, 写真図版第3図-5）

F9・F10グリットの地山面において検出した。E11-2ピットより南へ1.2mの地点にある。西側が未発掘区へと広がり、E9溝と同一のものである可能性を有している。断面形は皿状を呈し、深さは東壁最深部で67cm土を測る。埋土は、褐色土・暗褐色土・黒褐色土で12層からなり、人為的な堆積である。

B11-1 ピット（第10図-2, 写真図版第3図-6）

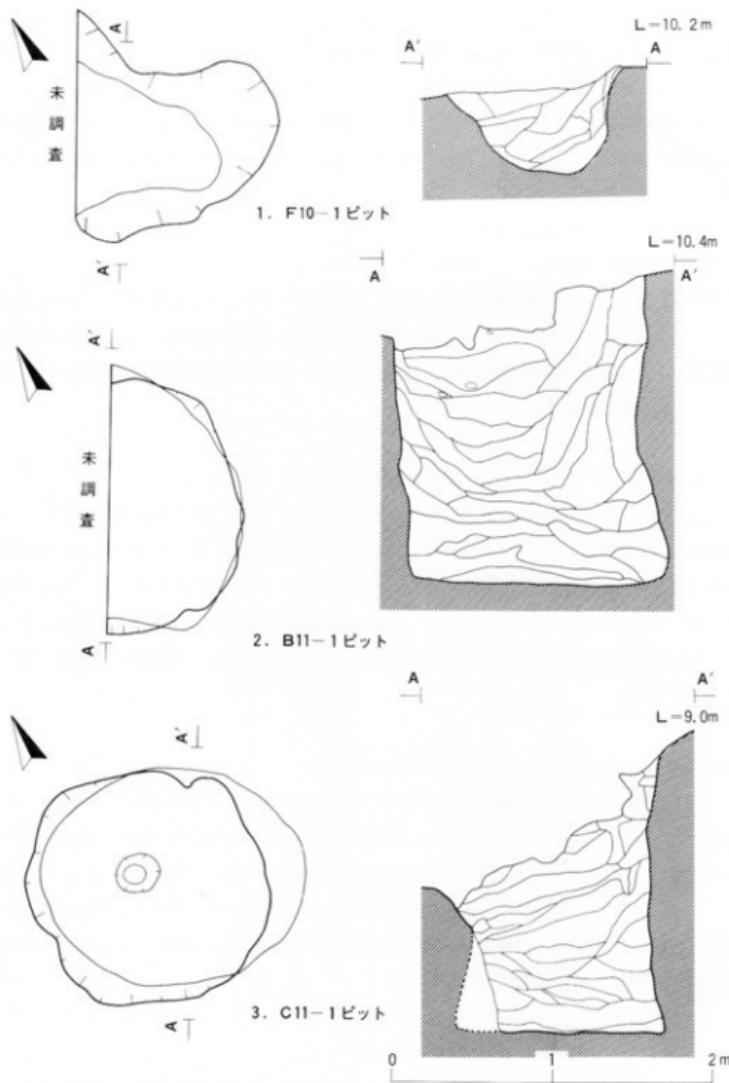
B11グリットの地山面において検出した。A10-1ピットより北東へ1mの地点にある。西側半分は未調査区へと広がる。平面形は、円形を呈すると思われ、断面形は南壁ではほぼ直壁状に立ち上がり、北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径156cm土・底部径145cm土で、深さは北壁最深部で203cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・黄橙色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で33層よりなり、自然堆積である。

C11-1 ピット（第10図-3, 写真図版第3図-7）

B11・C11グリットの地山面において検出した。C11-2ピットより北西に0.7mの地点に位置する。平面形は円形を呈し、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径23cm土・底部径14cm土・深さ11cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径156cm土・底部径165cm土で、深さは北壁最深部で157cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で38層からなり自然堆積である。

C11-2 ピット（第11図-1, 写真図版第3図-8）

C11グリットの4層上面において検出した。C11-1ピットより南東へ0.7mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状に立ち上がり、東壁では緩やかな傾斜で立ち上がり、北東壁では開口部から底部にかけて若干であるが抉りのあるフラスコ状を呈している。



第10図 F10-1・B11-1・C11-1 ピット

底面中央部に開口部径47cm土・底部径35cm土・深さ15cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径175cm土・底部径167cm土で、深さは東壁最深部で49cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・黒褐色土で13層からなり、上位は人為的な堆積である。

D11-1 ピット（第11図-2、写真図版第4図-1）

D11グリットの地山面において検出した。D10-2ピットより北東に0.5mの地点にある。平面形は、開口部では梢円形を呈し、底部は円形を呈している。底面の東壁よりに三基の小穴を有しており、それぞれの規模は、開口部径長軸23cm土・短軸20cm土、底部径長軸25cm土・短軸22cm土、深さ21cm土、開口部径27cm土・底部径27cm土・深さ20cm土、開口部径30cm土・底部径26cm土・深さ23cm土である。断面形は、西壁ではほぼ直壁状に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径は長軸156cm土・短軸104cm土で、底部径は162cm土、深さは北壁最深部で131cmを測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土の19層からなり、下位は自然堆積であるが上位は人為的な堆積である。

E11-2 ピット（第11図-3、写真図版第4図-2）

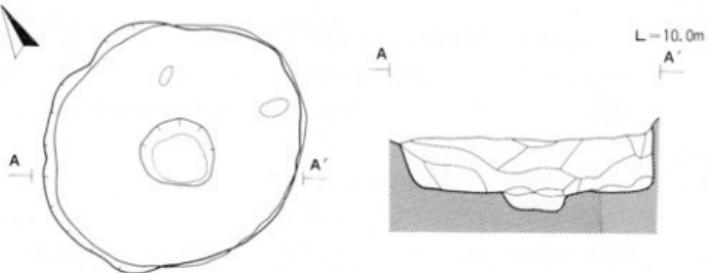
F10・F11グリットの地山面において検出した。E11-4ピットを切る。平面形は不明で、断面形は北壁では緩やかに傾斜し、南壁では直壁状に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で105cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で13層からなり自然堆積である。

E11-3 ピット（第12図-1、写真図版第4図-3）

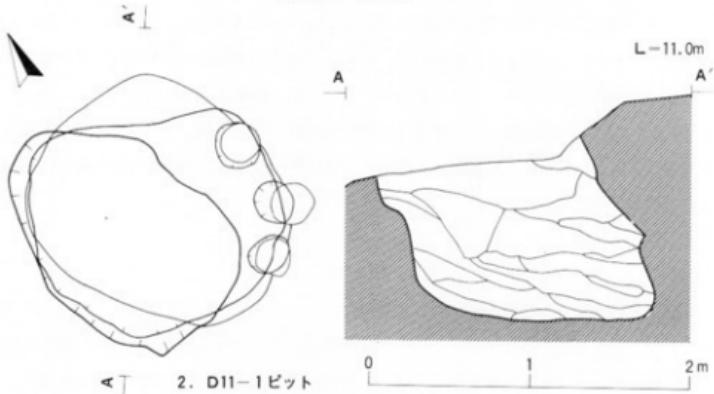
E11グリットの地山面において検出した。E11-4ピットとF11溝によって切られ、北壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、残存部での深さが40cm土である。埋土は、にぶい黄褐色土・暗褐色土・褐色土の15層からなり自然堆積である。

E11-4 ピット（第12図-1、写真図版第4図-2）

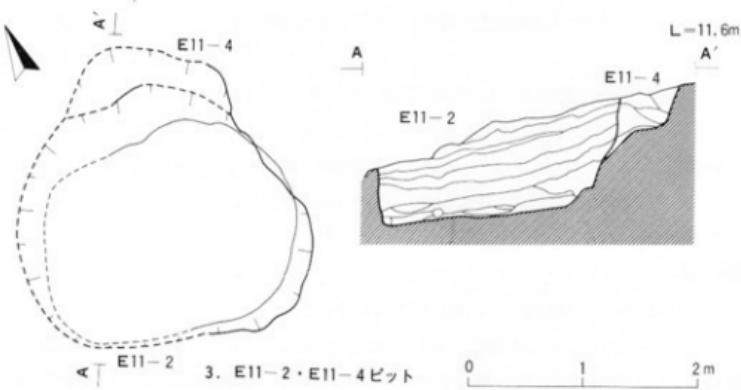
E11・F11グリットの地山面において検出した。E11-2ピットによって切られ北壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は皿状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で55cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・灰黄褐色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で6層からなり自然堆積である。



1. C11-2 ピット



2. D11-1 ピット



第11図 C11-2・D11-1・E11-2・E11-4ピット

G11-1 ピット（第12図-2、写真図版第4図-4）

F11・G11グリットの地山面において検出した。G12-1 ピットから南へ0.5m離れた地点にある。平面形は開口部は梢円形を呈しているが、底面形は南壁の地山中の大型の自然礫を避けるように三日月状に作り出している。断面形は、開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部では長軸193cm土・短軸130cm土で、底部は長軸206cm土・短軸140cm土で、深さは北壁最深部で115cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・褐色土・暗褐色土で、すべて自然堆積である。

B12-1 ピット（第12図-3、写真図版第4図-5）

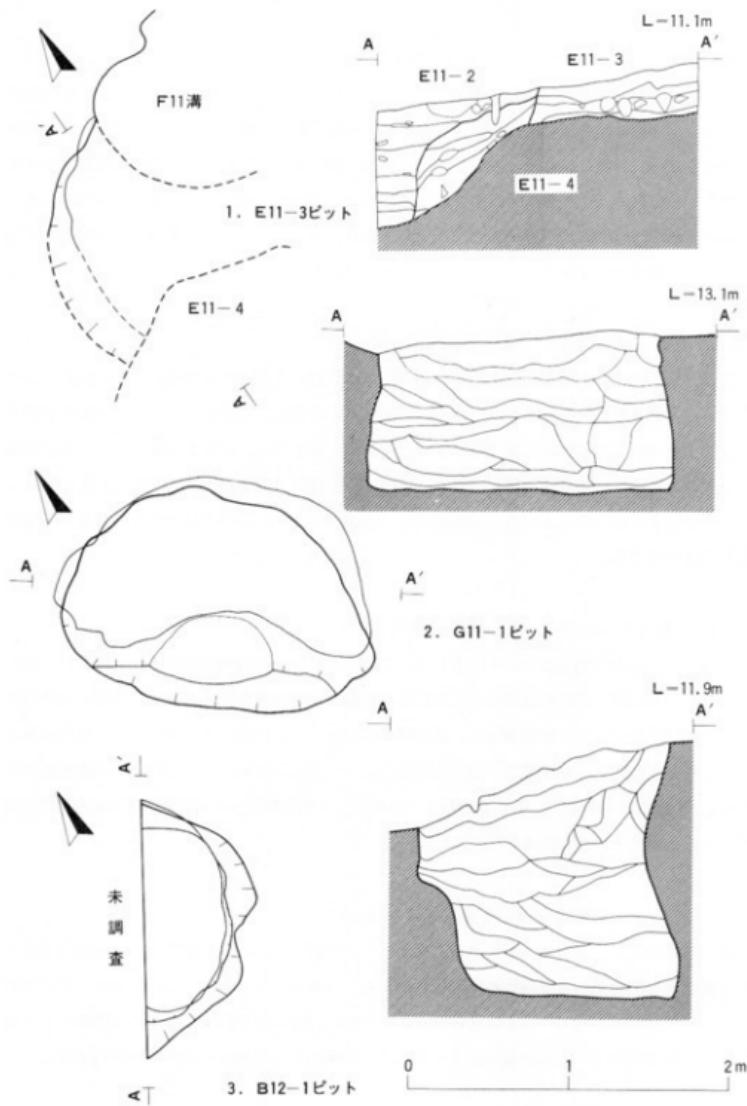
B12・B13グリットの地山面において検出した。B12-2 ピットより北へ0.5mの地点に位置する。西側半分が未発掘区へと広がり、形状は不明である。断面形は、南壁では中位で段をゆうするものの開口部から底部にかけてほぼ垂直に立ち上がり、北壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、西壁最深部で165cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・褐色土・暗褐色土で26層からなり、下位は自然堆積であるが上位は人為的な堆積である。

B12-2 ピット（第13図-1、写真図版第4図-6）

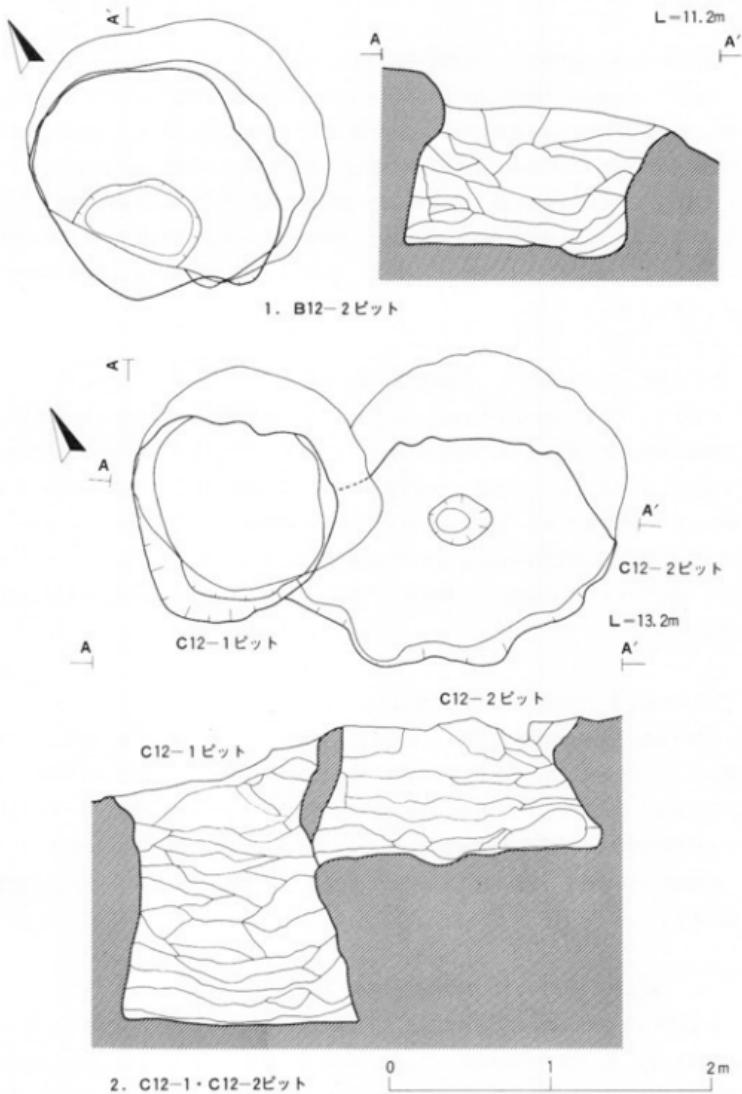
B12グリットの地山面において検出した。C12-1 ピットの西側に隣接する。形状は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の西壁寄りに開口部径長軸80cm土・短軸48cm土、底部径長軸69cm土、短軸38cm土、深さ8cm土の梢円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径155cm土・底部径188cm土で、深さは北壁最深部で155cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・褐色土・暗褐色土で22層からなり人為的な堆積である。

C12-1 ピット（第13図-2、写真図版第4図-7）

B12・C12グリットの地山面において検出した。C12-2 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径127cm土・底部径154cm土・深さは北壁最深部で159cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土で32層からなり自然堆積である。



第12図 E11-3・G11-1・B12-1ビット



第13図 B12-2・C12-1・C12-2ピット

C12-2 ピット（第13図-2、写真図版第4図-8）

C12グリットにおいて検出した。C12-1 ピットによって西壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径長軸38cm±・短軸30cm±、底部径長軸21cm±・短軸14cm±、深さ8cm±の楕円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径210cm±・底部径208cm±で、深さは北壁最深部で179cm±である。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土で20層からなり、上位は自然堆積であるが、底面付近には人為的な堆積と思われる粘土ブロックを有している。

C12-3 ピット（第14図-1、写真図版第5図-1）

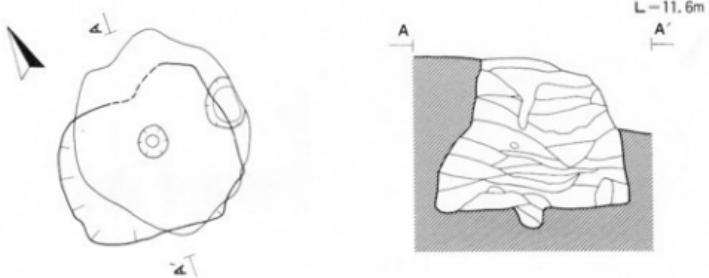
C12グリットの地山面において検出した。C12-4 ピットと隣接する。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径21cm±・底部径8cm±・深さ15cm±の円形の小穴を一基、東壁寄りに開口部長軸33cm±・短軸22cm±、底部長軸22cm±・短軸15cm±・深さ12cm±の楕円形の小穴を有している。規模は、開口部径126cm±・底部径123cm±、深さは北壁最深部で110cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土で24層からなり、部分的に人為的な堆積がみられる。

C12-4 ピット（第14図-2、写真図版第5図-2）

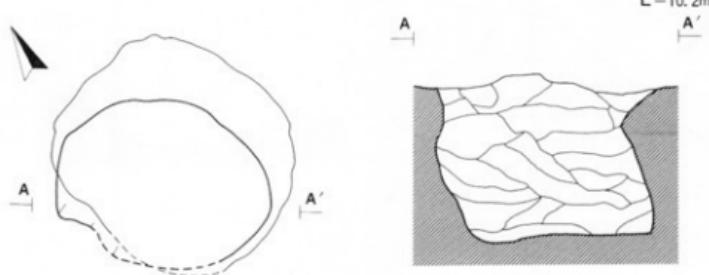
C11・C12グリットの地山面において検出した。C12-3 ピットに隣接する。西側%程が崩落によって消滅している。平面形は円形を呈すると思われ、断面形は、西壁では若干傾斜しながら立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径126cm±・底部径153cm±で、深さは北壁最深部で150cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・灰黄褐色土・褐色土・暗褐色土で22層からなり、自然堆積である。

F12-1 ピット（第14図-3、写真図版第5図-3）

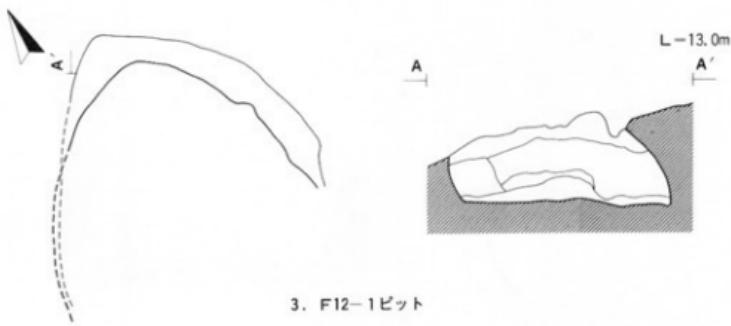
F12グリットの地山面において検出した。F11溝によって切られ、東壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さは北壁最深部で91cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土で5層からなる。



1. C12-3ピット



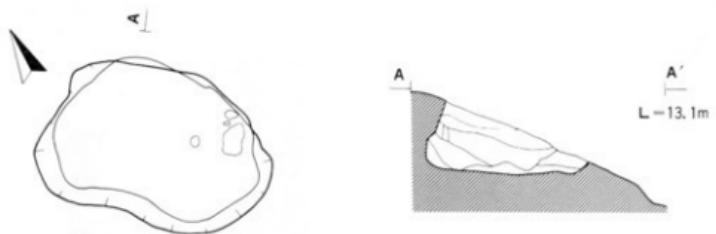
2. C12-4ピット



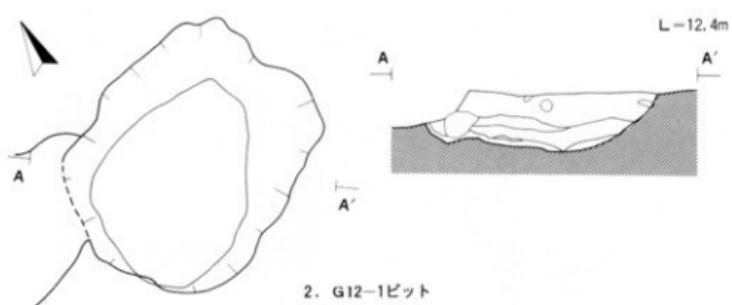
3. F12-1ピット

0 1 2m

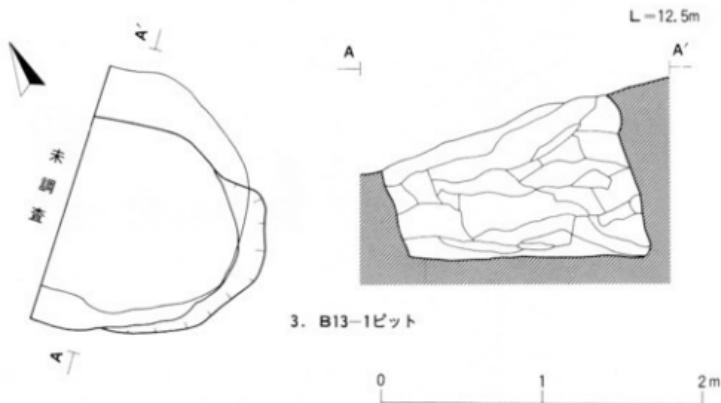
第14図 C12-3・C12-4・F12-1ピット



1. F12-2ピット



2. G12-1ピット



3. B13-1ピット

0 1 2m

第15図 F12-2・G12-1・B13-1ピット

F12-2 ピット（第15図-1, 写真図版第5図-4）

F12グリットの地山面において検出した。G12-1ピットの北側に隣接する。平面形は梢円形を呈し、断面形は、南西壁ではゆるやかに立ち上がり、北東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸150cm土・短軸102cm土、底部径長軸133cm土・短軸70cm土で、深さは北壁最深部で60cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・褐色土で8層からなり、層の堆積は自然堆積で部分的に壁の崩壊土がみられる。

G12-1 ピット（第15図-2, 写真図版第5図-5）

F11・F12・G12グリットの地山面において検出した。F11溝を切る。平面形は梢円形を呈し、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部径長軸162cm土・短軸123cm土・底部径長軸132cm土・短軸98cm土で、深さは東壁最深部で60cm土を測る。埋土は、黄褐色土・褐色土で7層からなり、自然堆積である。

B13-1 ピット（第15図-3, 写真図版第5図-6）

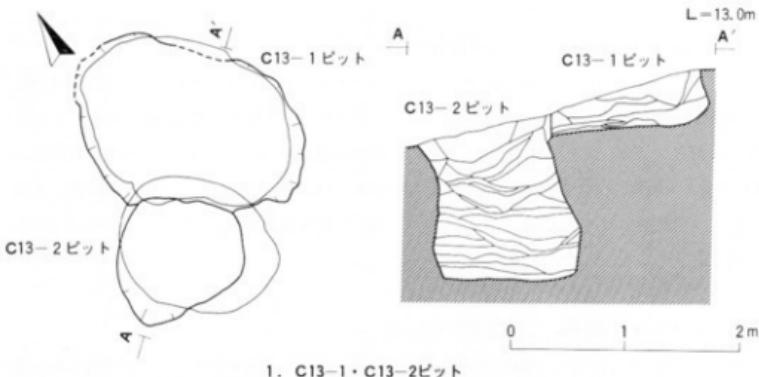
B13グリットの地山面において検出した。西側は未調査区へと広げる。平面形は不明で、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で114cm土を測る。埋土は、黄褐色土・明黄褐色土・褐色土・暗褐色土・黒褐色土で、人為的な堆積である。

C13-1 ピット（第16図-1, 写真図版第5図-7）

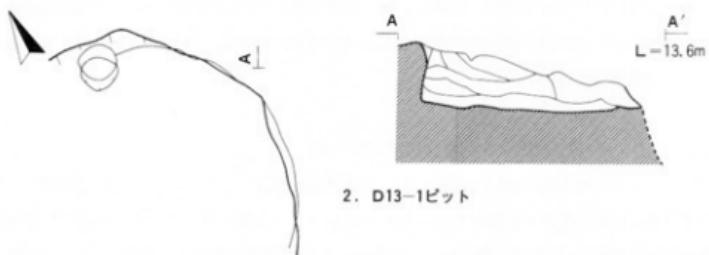
C13・C14グリットの地山面において検出した。C13-2ピットによって南壁を切られる。平面形は梢円形を呈し、断面形は東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸217cm土・短軸134cm土、底部径長軸200cm土・短軸135cm土で、深さは北壁最深部で47cm土を測る。埋土は、黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土で11層からなり自然堆積である。

C13-2 ピット（第16図-1, 写真図版第5図-8）

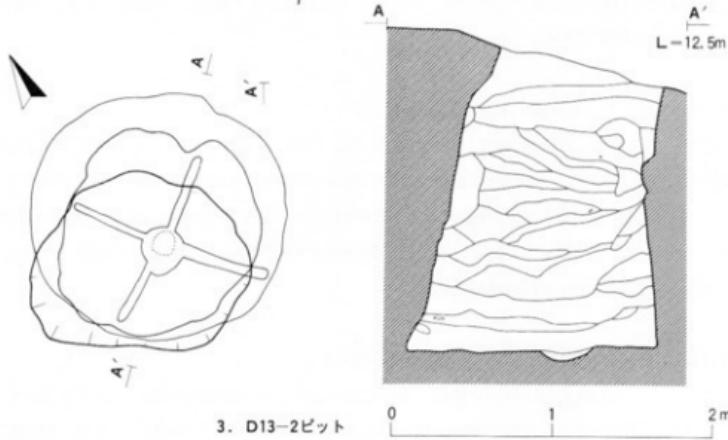
C13グリットの地山面において検出した。C13-1ピットの南側を切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径110cm土・底部径145cm土、深さは北壁最深部で161cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で30層からなり、自然堆積である。



1. C13-1・C13-2ピット



2. D13-1ピット



第16図 C13-1・C13-2・D13-1・D13-2ピット

D13-1 ピット（第16図-2, 写真図版第6図-1）

D13・D14・E13グリットの地山面において検出した。東壁のみが残存し、南壁はE13-1ピットによって切られる。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。北壁際に開口部径24cm土・底部径24cm土・深さ26cm土の小穴を一基有している。埋土は、黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で8層からなり自然堆積である。

D13-2 ピット（第16図-3, 写真図版第6図-2）

D13グリットの地山面において検出した。C13-1ピットより南方向へ1mの地点に位置する。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面に十字状の溝と、開口部径25cm土・底部径15cm土・深さ12cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径141cm土・底部径163cm土で、深さは北壁最深部で193cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・灰白色土で38層からなり自然堆積である。

E13-1 ピット（第17図-1, 写真図版第6図-3）

E13グリットの地山面において検出した。D13-1・E13-2ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央に開口部径20cm土・底部径10cm土・深さ8cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径102cm土・底部径137cm土で、深さは北壁最深部で107cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・灰黄褐色土・褐色土で15層からなり、自然堆積である。

E13-2 ピット（第17図-2, 写真図版第6図-4）

E13グリットの地山面において検出した。F13-2ピットによって東壁を、E13-1ピットによって西壁を切られる。平面形は橢円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸200cm土・短軸137cm土・底部径長軸191cm土・短軸145cm土で、深さは北壁最深部で45cm土を測る。埋土は、黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土で11層からなり自然堆積である。

F13-1 ピット（第17図-3, 写真図版第6図-5）

E13・E14・F13・F14グリットの地山面において検出した。F13-2ピットに西壁を切ら

れ、F14-3・F13-4 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径163cm土・底部径180cm土で、深さは北壁最深部で61cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土で7層からなり自然堆積である。

F13-2 ピット（第17図-3、写真図版第6図-6）

E13・F13グリットの地山面において検出した。E13-2・F13-1 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径122cm土・底部径154cm土で、深さは北壁最深部で109cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・灰白色土で17層よりなり自然堆積である。

F13-3 ピット（第17図-3、写真図版第6図-7）

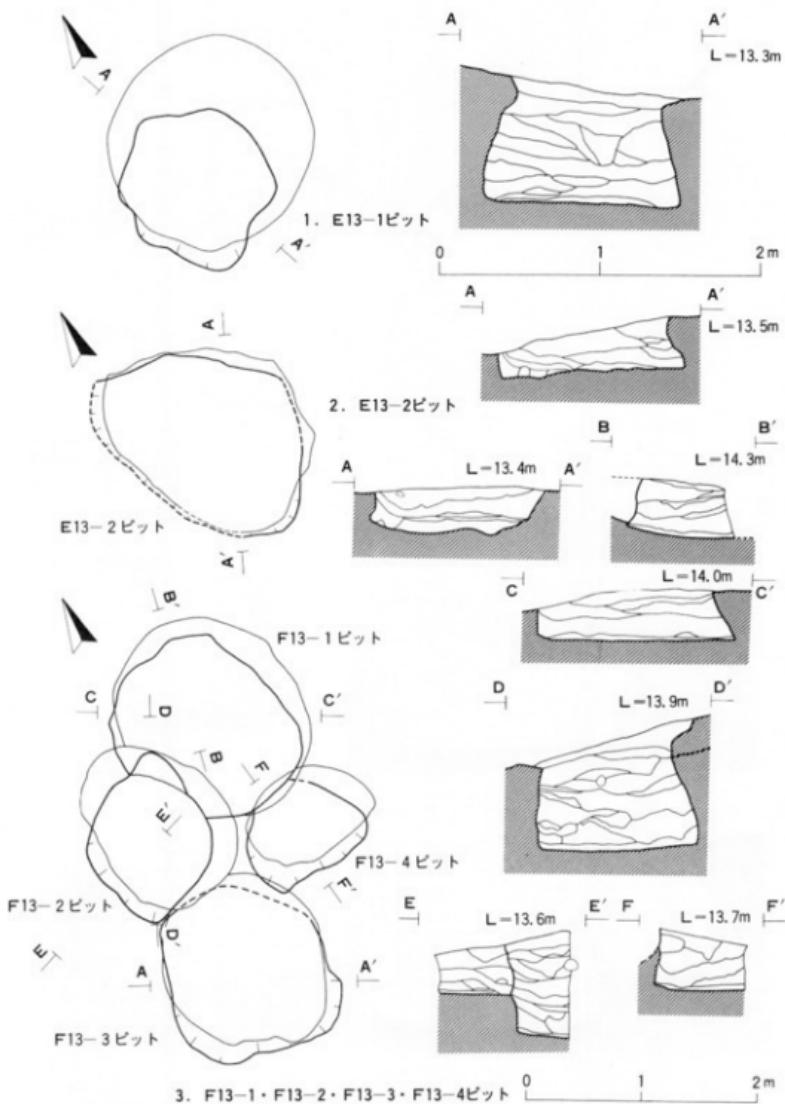
F12・F13グリットの地山面において検出した。F13-2 ピットによって北壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径183cm土・底部径162cm土で、深さは北壁最深部で60cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・淡黄色土・オリーブ褐色土・褐色土で6層からなり自然堆積である。

F13-4 ピット（第17図-3、写真図版第6図-8）

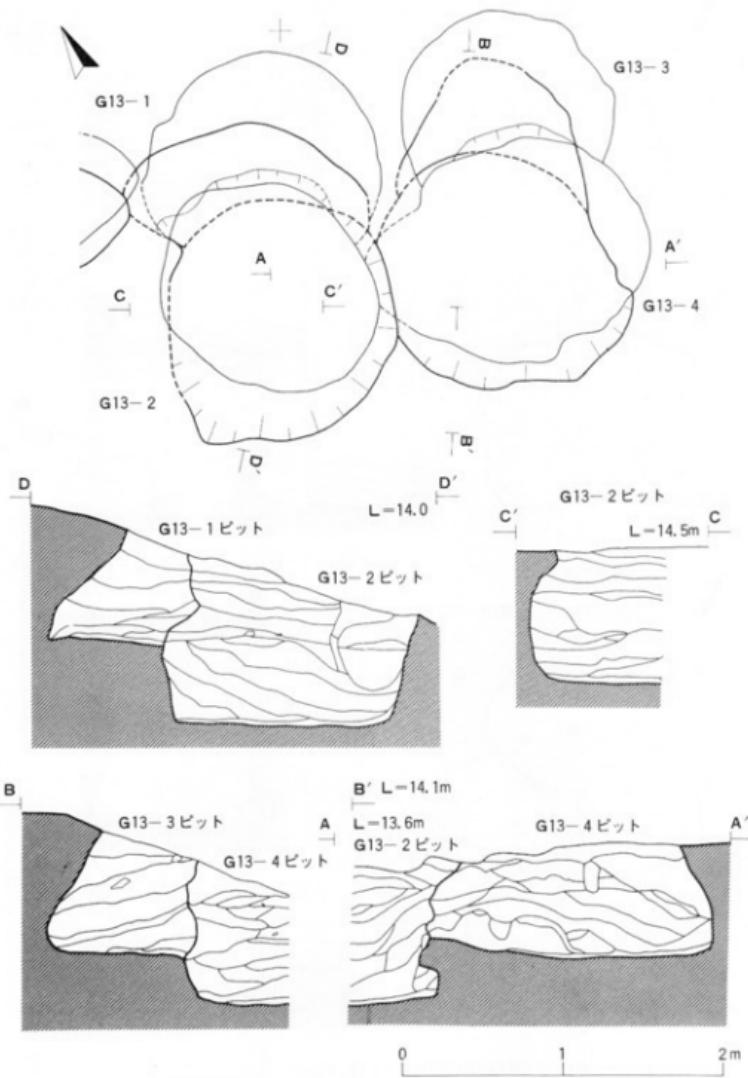
F13グリットの地山面において検出した。F13-1 ピットによって北壁の一部を切られ、G13-1 ピットの西壁を切る。平面形は梢円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸106cm土・短軸80cm土、底部径長軸116cm土・短軸78cm土で、深さは北壁最深部で65cm土を測る。埋土は、明黄褐色土・にぶい黄橙色土で6層からなり自然堆積である。

G13-1 ピット（第18図、写真図版第7図-1）

F13・G13グリットの地山面において検出した。F13-4・G13-2 ピットによって切られ、北壁のみが残存する。形状は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが最深部で76cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土で8層からなり自然堆積である。



第17図 E13-1・E13-2・F13-1・F13-2・F13-3・F13-4ピット



第18図 G13-1・G13-2・G13-3・G13-4ピット

G13-2 ピット（第18図、写真図版第7図-2）

F13・G13グリットの地山面において検出した。G13-1・G13-4 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径154cm土・底部径146cm土で、深さは西壁最深部で86cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・灰黄褐色土・灰白色土・にぶい黄橙色土・褐色土で17層よりなり自然堆積である。

G13-3 ピット（第18図、写真図版第7図-3）

G13グリットの地山面において検出した。C13-4 ピットによって切られ東壁が残存する。形状は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが85cm土である。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・褐色土で8層からなり自然堆積である。

G13-4 ピット（第18図、写真図版第7図-4）

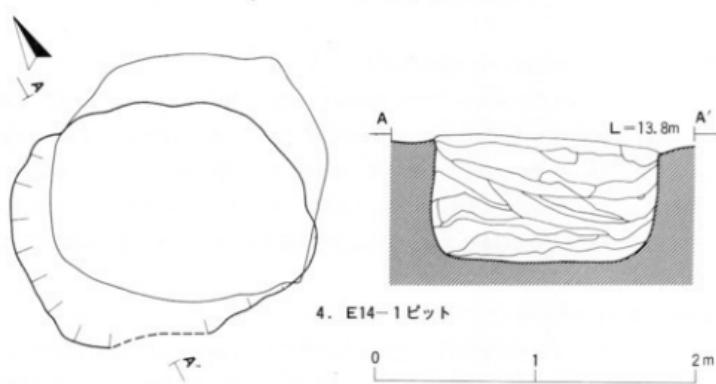
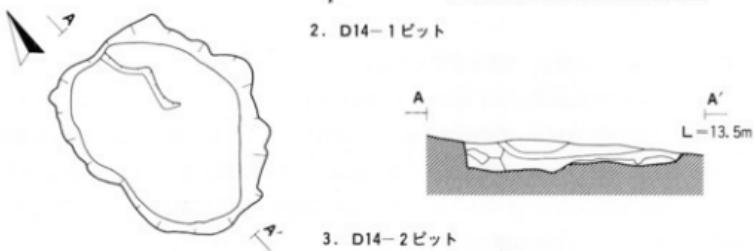
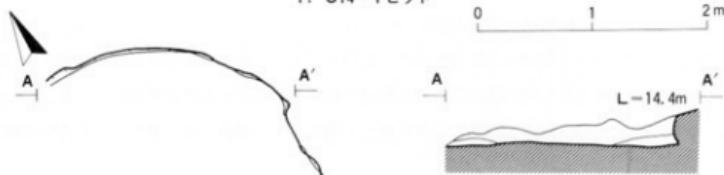
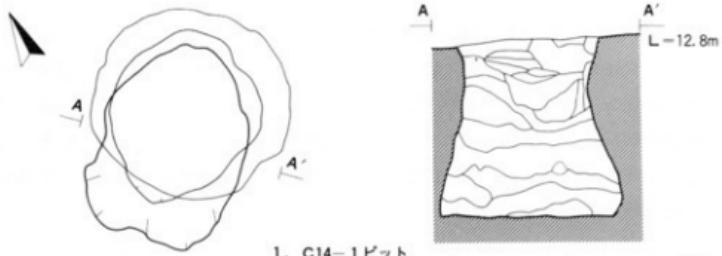
G13グリットの地山面において検出した。G13-2 ピットによって切られ、G13-3 ピットを切る。形状は円形を呈し、断面形は南壁では直壁状に立ち上がるが東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径150cm土・底部径210cm土で、深さは東壁最深部で127cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・灰黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で16層よりなり自然堆積である。

C14-1 ピット（第19図-1、写真図版第7図-5）

B13・B14・C13・C14グリットの地山面において検出した。C13-1 ピットの北側に隣接する。平面形は開口部は楕円形を呈し、底部は円形を呈している。断面形は、開口部より底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径長軸175cm土・短軸133cm土、底部径178cm土で、深さは北壁最深部で165cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい褐色土・褐色土で21層からなり、下位は自然堆積であるが上位は人為的な堆積である。

D14-1 ピット（第19図-2、写真図版第7図-6）

D14・D15グリットの地山面において検出した。東壁のみが残存する。平面形は不明で、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、深さが東壁最深部で36cm土を測る。埋土は、黄褐色土で3層からなり自然堆積である。



第19図 C14-1・D14-1・D14-2・E14-1ピット

D14-2 ピット（第19図-3, 写真図版第7図-7）

C13・D13の地山面において検出した。C13-1 ピットより東側へ0.6mの地点に位置する。平面形は楕円形を呈し、断面形は皿状を呈している。規模は、開口部の長軸144cm±・短軸112cm±、底部の長軸126cm±・短軸90cm±で、深さは北壁最深部で34cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で7層からなり、自然堆積である。

E14-1 ピット（第19図-4, 写真図版第7図-8）

D14・E14グリットの地山面において検出した。E14-2 ピットの北側に隣接し、E15-2・D14-1 ピットによって北壁が切られる。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状を呈し、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径177cm±・底部径187cm±で、深さは東壁最深部で117cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土・暗褐色土で19層からなり、自然堆積である。

E14-2 ピット（第20図-1, 写真図版第8図-1）

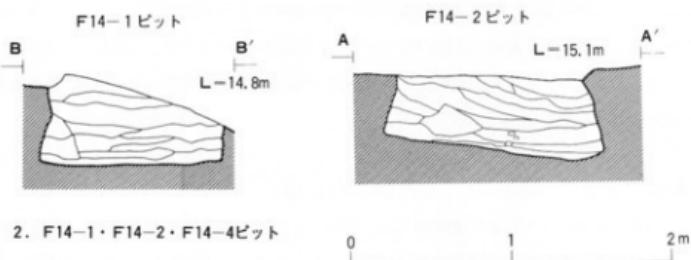
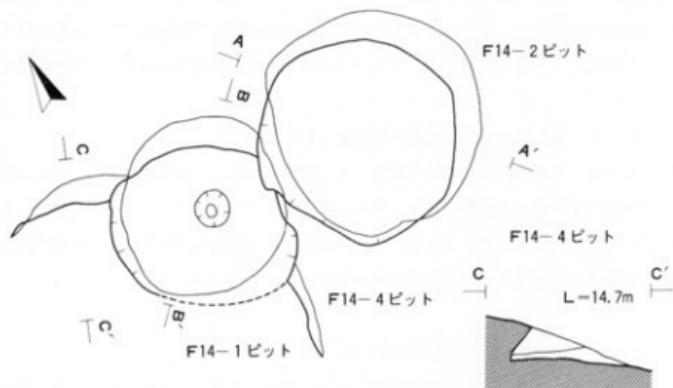
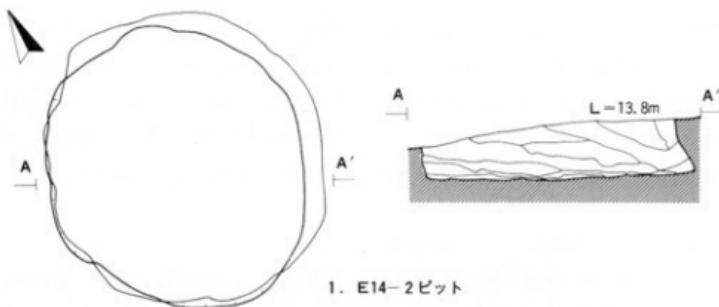
E13・E14グリットの地山面において検出した。E14-1 ピットに隣接する。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径183cm±・底部径190cm±で、深さは北壁最深部で61cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・褐色土で9層からなり自然堆積である。

F14-1 ピット（第20図-2, 写真図版第8図-2）

F14グリットにおいて検出した。東壁が若干F14-2 ピットによって切られる。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁気味に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径23cm±・底部径9cm±・深さ8cm±の小穴を一基有している。規模は、開口部径110cm±・底部径114cm±で、深さは北壁最深部で69cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・褐色土ですべて自然堆積である。東壁付近では、壁の崩落土がみられる。

F14-2 ピット（第20図-2, 写真図版第8図-3）

F14・F15グリットにおいて検出した。F14-1 ピットの東壁を若干切る。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径125cm±・底部径146cm±で、深さは北壁最深部で58cm±を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土で13層からなる。層の堆積は、上位は自然堆積である



第20図 E14-2・F14-1・F14-2・F14-4ピット

が、下位は人為的な堆積で、成人男性一体を検出している。

F14-3 ピット（第21図-1、写真図版第8図-4）

E14・F14グリットの地山面において検出した。F13-1ピットによって南壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径21cm土・底部径16cm土・深さ23cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径113cm土・底部径117cm土で、深さは北壁最深部で86cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・灰黄褐色土・にぶい黄橙色土で16層からなり自然堆積である。

F14-4 ピット（第20図-2、写真図版第8図-2）

F14グリットにおいて検出した。東壁の一部が残存するが、残存部はF14-1ピットによって切られている。平面形は不明で、断面形は底部にかけて抉りがみられフラスコ状を呈している。規模は、深さが北壁最深部で26cm土を測る。埋土は、明黄褐色土・褐色土で2層からなる。

F14-5 ピット（第21図-2、写真図版第8図-5）

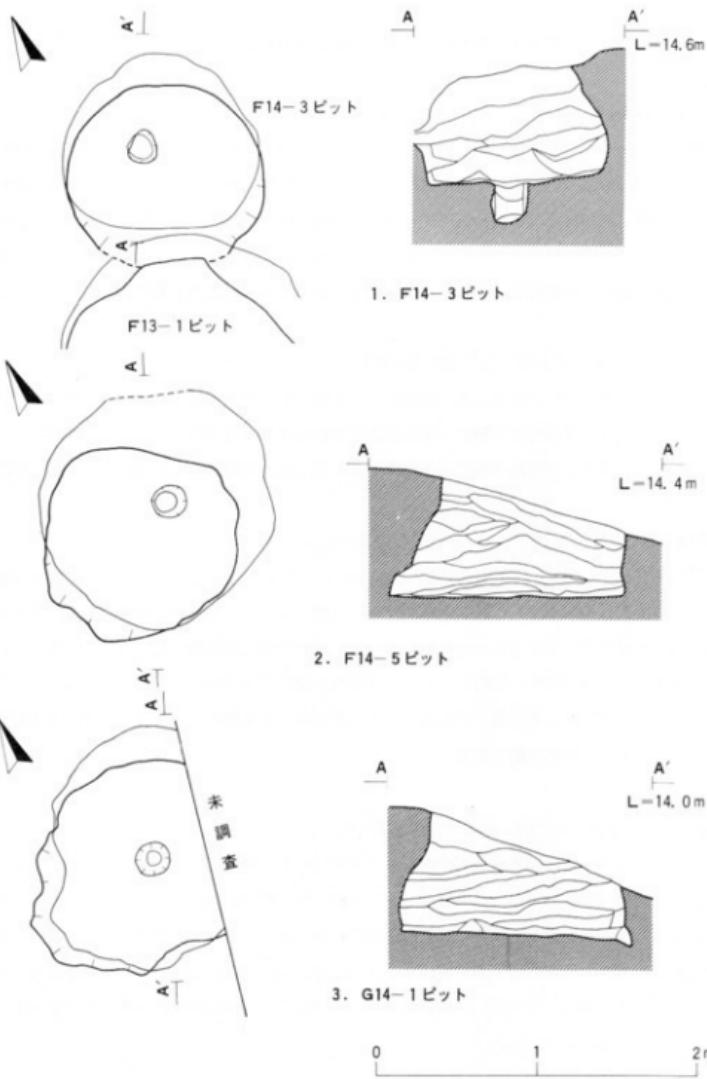
F13・F14・G13・G14グリットの地山面において検出した。G13-1ピットの東側に隣接する。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状に立ち上がるが、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径21cm土・底部径13cm土・深さ10cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径130cm土・底部径155cm土で、深さは北壁最深部で81cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で16層よりなり、自然堆積である。

G14-1 ピット（第21図-3、写真図版第8図-6）

G14グリットの地山面において検出した。東壁15cm程が未調査区へとひろがる。G13-3ピットの東側に隣接する。平面形は円形を呈すると思われ、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部に開口部径20cm土・底部径9cm土・深さ10cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径147cm土・底部径148cm土で、深さは北壁最深部で74cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・褐色土で12層からなり、すべて自然堆積である。

D15-1 ピット（第22図-1、写真図版第8図-7）

C15・C16・D15・D16グリットの地山面において検出した。C16-1ピットより南へ2m



第21図 F14-3・F14-5・G14-1 ピット

の地点にある。D15-2 ピットによって南壁が切られる。平面形は円形を呈し、断面形は北壁では直壁でビーカー状を呈している。規模は、開口部径142cm土・底部径138cm土で、深さは北壁最深部で54cm土を測る。埋土は、明黄褐色土・にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土で、16層からなり上位のものは人為的な堆積で、下位のものは自然堆積である。

D15-2 ピット（第22図-1、写真図版第8図-8）

C15・D15グリットの地山面において検出した。D15-1 ピットの南壁を切る。平面形は円形を呈し、断面形は底部付近でやや丸みを帯びる直壁でビーカー状を呈している。規模は、開口部径177cm土・底部径170cm土で、深さは北壁最深部で56cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・浅黄色土・淡黄色土・にぶい黄橙色土・褐色土で5層からなり、すべて自然堆積である。

E15-1 ピット（第22図-2、写真図版第9図-1）

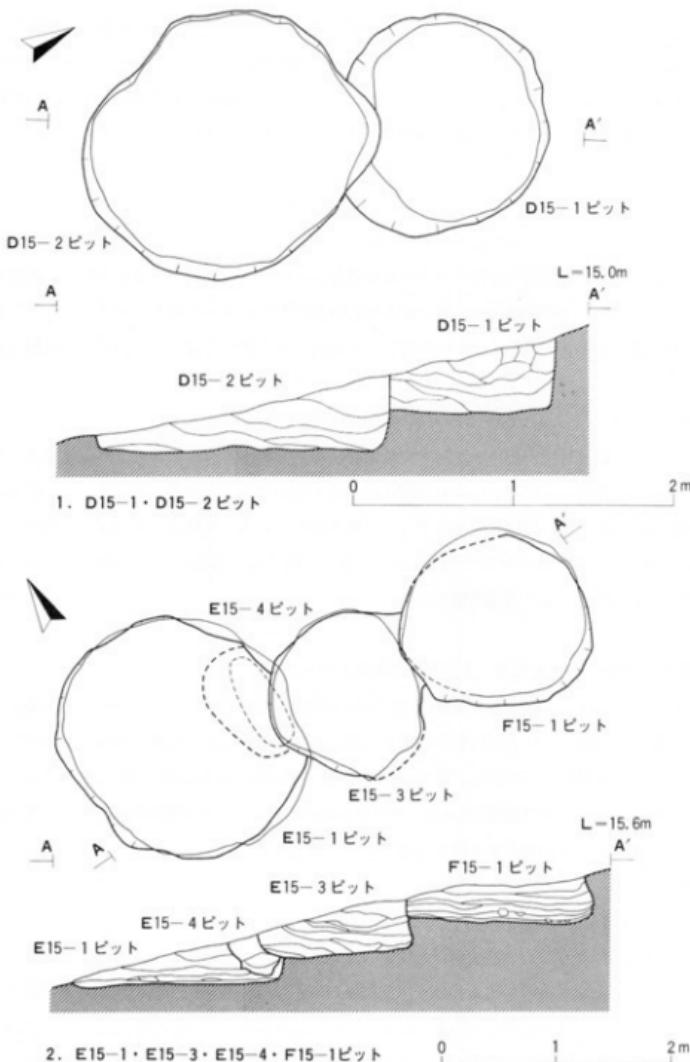
D15・D16・E15・E16グリットの地山面において検出した。E15-3 ピットによって東壁が切られ、E15-4 ピットによって埋土の一部を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径220cm土・底部径213cm土で、深さは北壁最深部で62cm土を測る。埋土は、黄褐色土・灰黄褐色土・にぶい黄橙色土で8層からなり自然堆積である。

E15-2 ピット（第23図-1、写真図版第9図-2）

D15・E14・E15グリットの地山面において検出した。E14-2 ピットの北壁を切る。平面形は西壁は消滅しているが円形を呈すると思われる。断面形は、北壁では緩やかに立ち上がり、南壁では直壁状に立ち上がり、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径152cm土・底部径144cm土で、深さは北壁最深部で40cm土を測る。埋土は、黄褐色土・褐色土で5層からなり自然堆積である。

E15-3 ピット（第22図-2、写真図版第9図-3）

E15・E16グリットの地山面にて検出した。E15-1・E15-4 ピットの東壁を切り、F15-1 ピットによって東壁を切られる。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径150cm土・底部径155cm土で、深さは北壁最深部で52cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で11層からなり自然堆積である。



第22図 D15-1・D15-2・E15-1・E15-3・E15-4・F15-1ピット

E15-4 ピット（第22図-2, 写真図版第9図-1）

E15-1 ピットの埋土中において検出した。E15-3 ピットによって切られる。平面形は不明で、断面形は皿状を呈している。規模は、深さが20cm土である。埋土は、にぶい黄橙色土で3層からなり自然堆積である。

F15-1 ピット（第22図-2, 写真図版第9図-4）

E15・E16・F15・F16グリットの地山面において検出した。E15-3 ピットを切る。平面形は円形を呈し、断面形は西壁では直壁状に立ち上がっているが、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。規模は、開口部径152cm土・底部径154cm土で、深さは北壁最深部で43cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土で8層からなり、自然堆積である。

F15-2 ピット（第23図-2, 写真図版第9図-5）

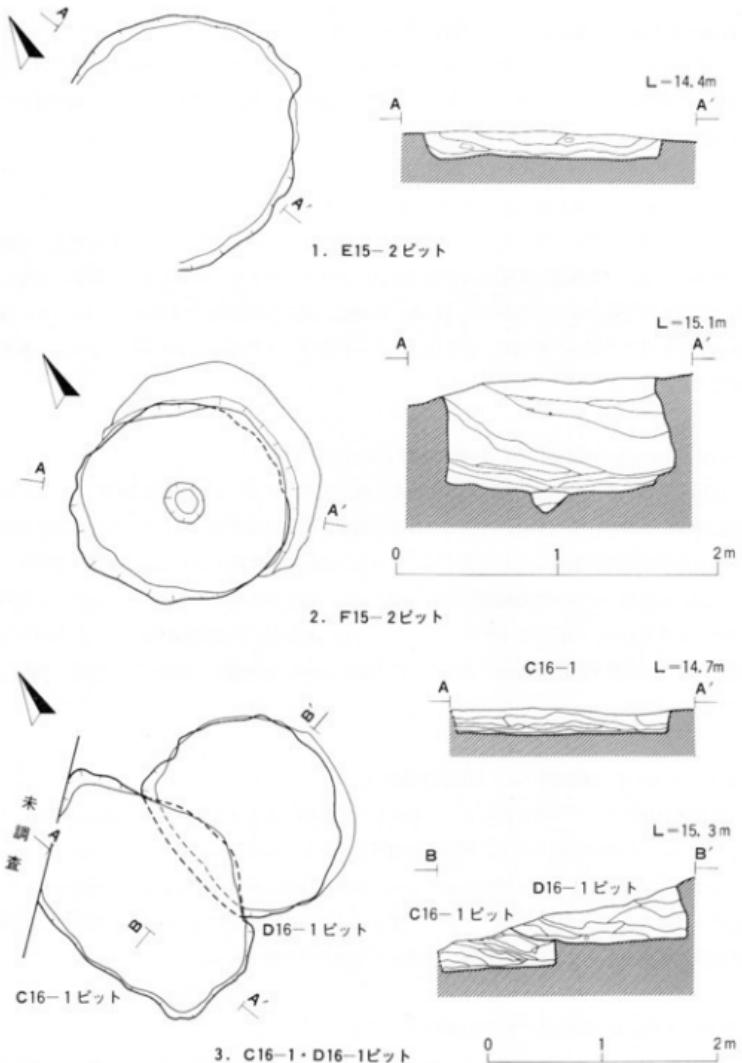
E15・F15グリットの地山面において検出した。E15-3 ピットの南側に隣接している。平面形は円形を呈し、断面形は、西壁ではほぼ直壁で、東壁では底部で段を有し開口部から中位下部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の段の状況から二基切りあっているものと思われるが、ピット間の新旧関係は不明である。底面の中央部に開口部径27cm土・底部径15cm土・深さ14cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径155cm土・底部径128cm土で、深さは北壁最深部で67cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で13層からなる。

C16-1 ピット（第23図-3, 写真図版第9図-6）

C16・D16グリットの地山面において検出した。D15-1 ピットの北側に隣接し、D16-1 ピットによって東壁が切られる。平面形は梢円形を呈し、北壁は未調査区へとひろがる。断面形は南壁では直壁しビーカー状を呈している。規模は、開口部長軸241cm土・短軸162cm土、底部径長軸220cm土・短軸160cm土である。深さは、北壁最深部で44cm土を測る。埋土は、黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土で7層からなり自然堆積である。

D16-1 ピット（第23図-3, 写真図版第9図-7）

C16・D16・C17・D17グリットの地山面において検出した。D15-1 ピットから北東へ1m離れた地点に位置し、C16-1 ピットの東壁を切る。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は、西壁では皿状を呈し、東壁では開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。



第23図 E15-2・F15-2・C16-1・D16-1ピット

規模は、開口部径180cm土・底部径172cm土で、深さは、東壁最深部で59cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土・褐色土で9層からなり、すべて自然堆積である。

E16-1 ピット（第24図-1, 写真図版第9図-8）

E16グリットの地山面において検出した。D17-1ピットより南へ1.5mの地点にある。平面形は円形を呈し、断面形は、西壁では開口部から中位にかけて直壁で、中位から底部にかけて若干抉りを有し、東壁では開口部直下で頸部状の張り出しがみられ、張り出しから底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面の中央部付近に開口部径25cm土・底部径18cm土・深さ11cm土の円形の小穴を一基有している。規模は、開口部径140cm土・底部径127cm土で、深さは北壁最深部で80cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・黄褐色土・明黄褐色土・にぶい黄橙色土で14層からなる。

D17-1 ピット（第24図-2, 写真図版第10図-1）

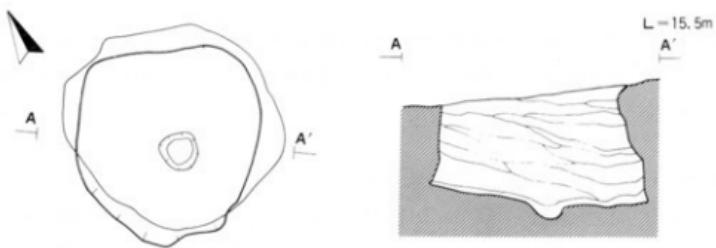
D17・E17グリットの地山面において検出した。平面形は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて抉りのあるフラスコ状を呈している。底面中央部に開口部径20cm土・底部径16cm土・深さ10cm土の小穴を一基有している。規模は、開口部径120cm土・底部径115cm土で、深さは東壁最深部で66cm土を測る。埋土は、にぶい黄褐色土・にぶい黄橙色土で7層からなる。層の堆積は人為的な堆積と思われ1層と5層より人骨片を検出している。

2 柱穴状ピット群（第25図, 写真図版第10図-2）

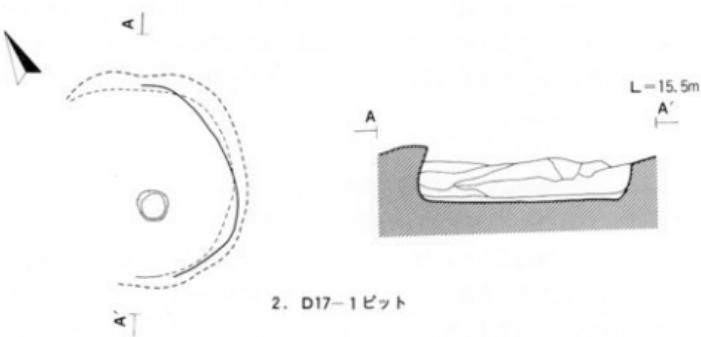
D8・D9・E8・E9・F8・G6・G7・G8・H6・H7・H8・H9・I6・I7・I8・I9・J5・J6・J7グリットの3層上面において160基程の柱穴状ピットを検出している。柱穴状ピットは標高9m程の地点を、発掘区を横切るように分布する。規模は、開口部径20~50cm土・深さは20cm土のものが主体である。埋土は、2層に類似した土で、2層中からの掘り込みと思われる。柱穴状ピットは、列状を呈している箇所も見受けられるが、各ピット相互の関係は現在のところ不明である。

3 配石遺構

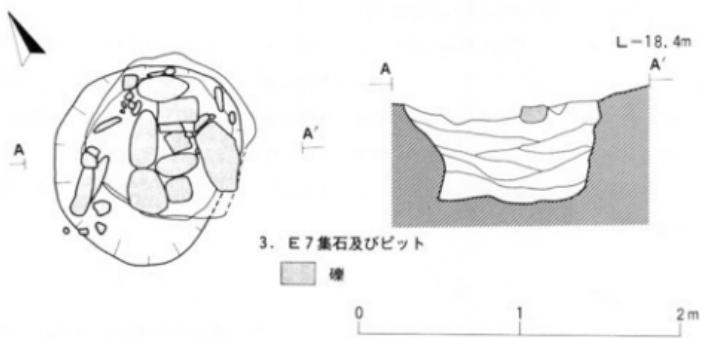
発掘区の下位、標高約9mの地点の2層中より帶状に広がる多量の礫の出土を見た。礫は海蝕をうけた花崗岩質の径10cm程の円礫・楕円礫を主体とするもので、2tトラック4台分が出土している。花崗岩質の円礫・楕円礫は周辺からは産出せず、最低1km離れた海岸線から搬入



1. E16-1 ピット



2. D17-1 ピット

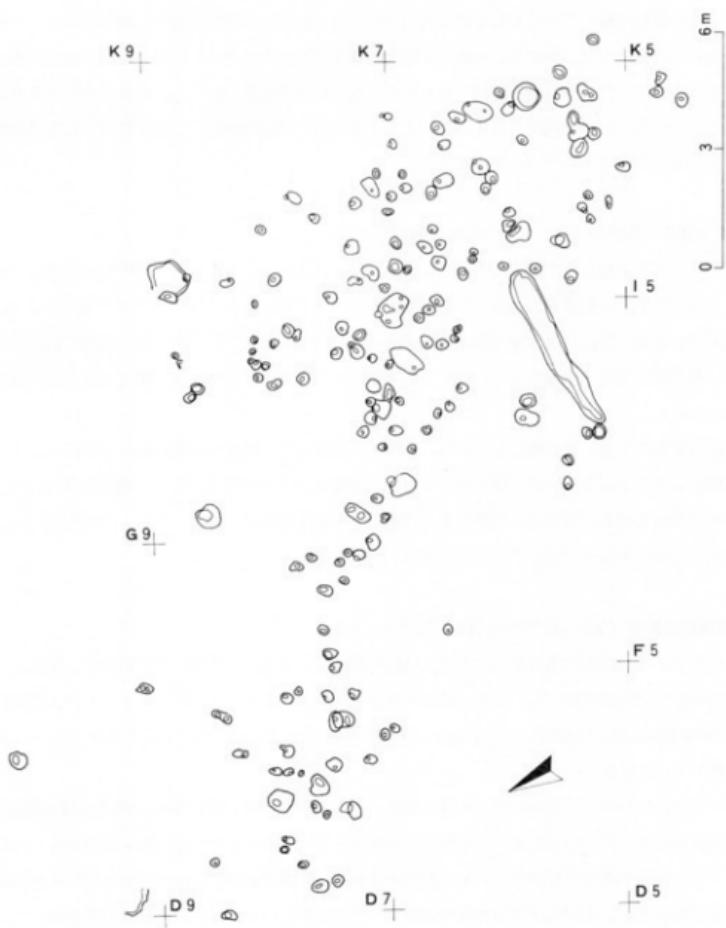


3. E7 集石及びピット

■ 砂

0 1 2m

第24図 E16-1・D17-1ピット及びE 7 集石



第25図 柱穴状ピット群

されたものと思われる。礫の広がりは、各礫にはレベル差があるものの、幅27m・長さ30mの範囲に礫を集中させたもので、等高線に沿うように横位に調査区を横断し、未調査区へと広がる。この帶状の礫の広がりには、特に幅約10m・長さ約30mの範囲に濃密に礫を集中させた箇所もみられる。また、中には、斜面に平坦面や溝を作り出し、その上に径1m以上の大型礫を据えたものや、部分的に礫を集積させたもの、列状に礫を配置したもの、弓矢状を呈するものなど、多種類の配石で構成されている。このうち特に、紙面の都合上、E 7集積・弓矢状の配石・E 9大型礫についてのみ説明を行う。

E 7集石（第24図-3, 写真図版第10図-3, 4）

E 7グリットにおいて検出した。立石を中心に、長径25cm以上の大型の楕円形や長方形の礫を「コ」の字状に配置し、内側に、平坦面を有する長方形や正方形の礫を据えたものである。立石は、花崗岩質の扁平な礫で20cm程が露出する。内側に据えられた礫には、花崗岩質のもので、熱を受けぼろぼろになっているものもみられるが、周辺からは、炭や焼土の広がりは検出していない。

配石下から土壤一基を検出している。形状は円形を呈し、断面形は開口部から底部にかけて直壁状に立ち上がるビーカー状を呈している。規模は、開口部径125cm±・底部径90cm±で、深さは75cmを測る。埋土は、暗褐色土・黒褐色土・褐灰色土で7層よりなり、自然堆積である。埋土より骨片が数点出土しているが、種は不明である。

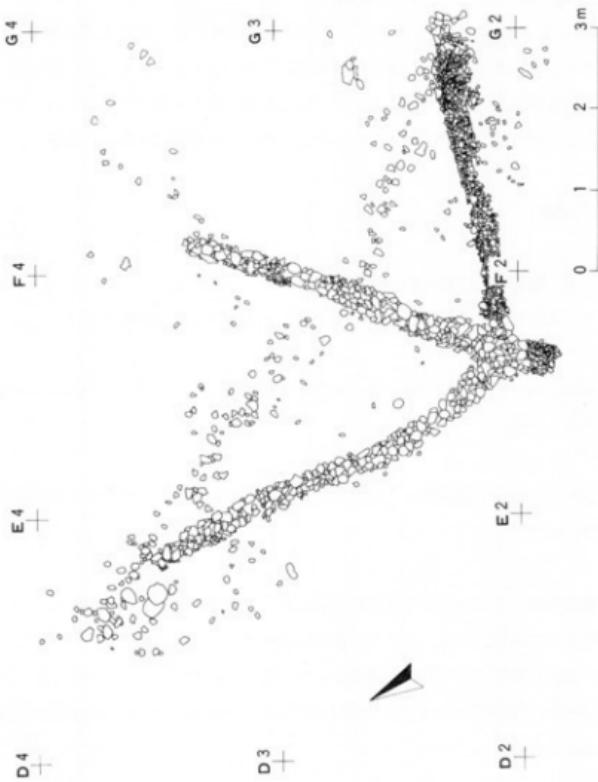
弓矢状の配石（第26図、写真図版第10図-5, 6）

弓矢状あるいは矢印状の配石である。弓矢を想定しての説明が理解しやすいので、便宜上弓矢状の配石の用語を用いた。D 4・E 2・E 3・E 4・F 3・F 4・G 3グリットの、標高約7.8mの地点において検出した。主軸は、ほぼ南西方向を向いている。主軸の長さ4.85m、最大幅7.55mである。

配石は、幅約60cm・深さ約24cmの溝の中に、花崗岩質の円礫・楕円礫や、碎石を埋め込み、弓矢状に配置したものである。弓の部分の右半分と弦に相当する部分は円礫・楕円礫で、弓の左半分に相当する部分は碎石で、矢に相当する部分は先端部が碎石、柄の部分は円礫・楕円礫と碎石の混合と、意図的に種類の異なる礫を各部位に配置して、弓矢状の形状を作り出している。また、弓の右半分のみには男根状の石棒・敲石・礫石器などの石器が6点据えられていた。

E 9大型礫（第27図-1, 写真図版第10図-7）

E 9グリットにおいて検出した。長径117cm・短径81cm・厚さ65cm程の大型の花崗岩の楕円



第26図 弓矢状の配石

礫を、斜面に平坦面を設け据えたものである。大型礫の下部には、幅40cm程の石を噛ませ、石の転落を防いでいる。

4 焼土遺構

I 9-2 焼土遺構（第27図-2、写真図版第10図-8）

I 8・I 9 グリットにおいて検出した。H 8溝によって北壁を切られる。平面形は不明で、断面形は皿状を呈している。規模は、深さが東壁最深部で23cmを測る。埋土は、暗褐色土・褐色土・黒褐色土・灰褐色土で11層となる。埋土中に多量の焼土・炭を含む層がみられ、地床炉と思われる。炉に伴う施設は検出できなかったが、焼けた花崗岩質の礫を一点検出している。

IV 発見された遺物

発掘調査の結果、縄文時代中期末から後期前葉の遺物が多数発見された。そのほとんどは、時間的な制約から未整理である。現在把握している出土遺物の概要は下記の通りである。

* 土器

大木10式から堀之内II式並行の土器片が、中型コンテナ100箱程出土している。うち復元可能な固体は50個程度である。

* 土製品

土偶19点・耳飾り7点・土製円盤62点・腕輪2点・土鉈1点が出土している。そのほとんどは配石群からの出土である。

* 石器

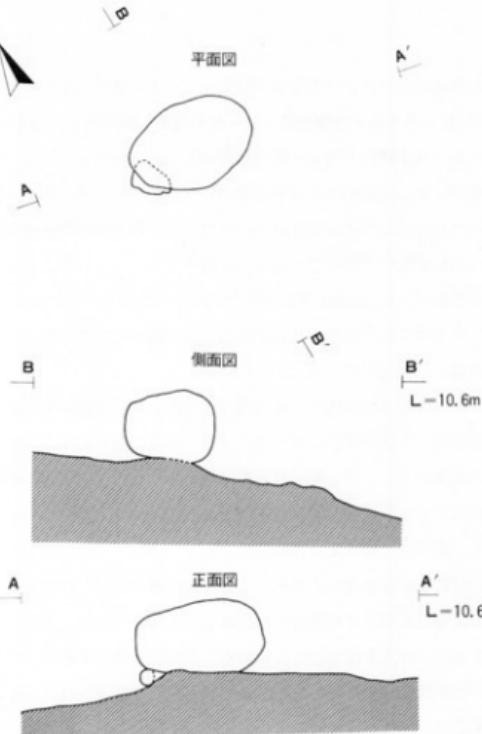
石器は、現在登録しているものだけで4144点ある。このほか、2tトラック4台分の円礫や楕円礫が出土しており、今後、それらの整理が進めば、さらに数千点の石器が増えるものと思われる。現在判明している石器の機種ごとの点数は、石鏃2268点・石錐171点・尖頭器157点・石匙20点・不定形石器1447点・磨製石斧42点・石棒20点・その他19点で、全体の55%を石鏃が占めている。

* 骨角器

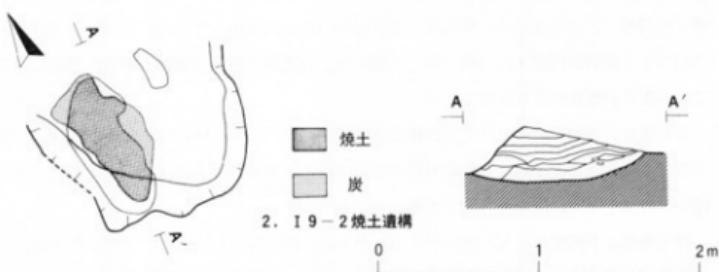
釣針2点・骨鏃5点・角棒2点が出土している。湿地性の遺物包含層からの出土である。

* 動物遺存体

動物遺存体は、湿地性の遺物包含層と配石群から出土している。湿地性の遺物包含層からは、中型コンテナ2箱程度の骨が出土しているが、貝の出土は全く見られない。配石群からはアオザメの歯のみが20点程出土している。



1. E 9 大型窯



第27図 E 9 大型窯・I 9-2 焼土遺構

V まとめ

- 1 検出された遺構は、フラスコ型ピット58基・ビーカー状ピット7基・皿型ピット6基・柱穴状ピット164基・溝4条・埋甕遺構1基・配石遺構1群である。出土した遺物から、これらの遺構の時期は縄文時代中期末～後期初頭のものと思われる。
- 2 フラスコ型ピットは、底面における小穴の有無によって、小穴を有するもの（A）と・小穴の無いもの（B）の二つに大別される。Aは37基、Bは21基検出されている。小穴を有するものは、さらに底面の中央部に小穴を一基有するもの（a）と、壁寄りに一基から三基の小穴を有するもの（b）、底面中央部と壁寄りに一基の小穴を有するもの（c）、底面中央部に小穴と十字状の溝を有するもの（d）の四つに分類が可能である。aは14基、bは5基、cは1基、dは1基検出している。
- 3 柱穴状ピットは3層上面の標高9mの地点で検出した。発掘区を横切るように164基分布している。埋土は、2層に類似した土で、2層中からの掘り込みと思われる。フラスコ状のピットなどの大型のピット群と配石群とを区画するための、何らかの施設があったものと思われるが、柱穴状ピット相互の関係は不明である。
- 4 配石遺構は、幅27m・長さ30mの範囲に、2tトラック4台分にもおよぶ花崗岩質の円礫や楕円礫を帶状に集中させたものである。この帶状の礫の広がりには、特に幅10m・長さ30mの範囲に濃密に礫を集中させた箇所もみられる。また、中には、斜面に平坦や溝を作り出し、その上に径1m以上の大型礫を据えたものや、部分的に礫を集積させたもの、列状に礫を配置したもの、弓矢状を呈するものなど、多種類の配石で構成されている。
- 5 弓矢状の配石は、形状が弓矢状あるいは矢印状を呈する配石である。便宜状、弓矢状配石の用語を用いた。配石は、幅約60cm・深さ約24cmの溝の中に、花崗岩質の円礫・楕円礫や、碎石を埋め込み、弓矢状に配置したものである。弓の部分の右半分と弦に相当する部分は円礫・楕円礫で、弓の左半分に相当する部分は碎石で、矢に相当する部分は先端部が碎石、柄に相当する部分は円礫・楕円礫と碎石の混合と、意図的に種類の異なる礫を各部位に配置して、弓矢状の形状を作り出している。
- 6 大型礫は、3層上面において6個検出している。いずれも花崗岩質で、径1m近い大型のものである。うち、1個は斜面に平坦面を設け据えたもので、1個は溝の上に据えており、他のものは土壤上に据えたものである。
- 7 燃土遺構は1基検出した。地床炉と思われるが、炉に伴う施設は検出できなかった。
- 8 発見された遺物は、土器・土製品・石器・骨角器・動物遺存体・植物遺存体がある。
- 9 土器は、中型コンテナ100箱程出土している。時期的には大木10式から堀之内II式並行である。

- 10 土製品は、土偶19点・耳飾り7点・土製円盤62点・腕輪2点・土鈴1点が出土している。
- 11 石器は、現在登録しているものだけで4144点ある。今後整理が進めばさらに数千点増えるものと思われる。現在判明している石器の機種ごとの点数は、石鎌2268点・石錐171点・尖頭器157点・石匙20点・不定形石器1447点・磨製石斧42点・石棒20点・その他19点で、全体の55%を石鎌が占めている。
- 12 骨角器は、釣針2点・骨鏃5点・角棒2点が出土した。
- 13 動物遺存体は、中型コンテナ2箱程度の骨が出土したが貝の出土はみられなかった。



1. 調査前（南より）



2. 調査区遠景（西より）



3. 調査風景（北より）

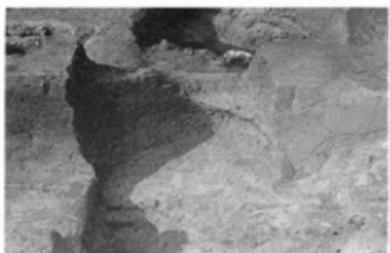


4. 調査風景（南より）

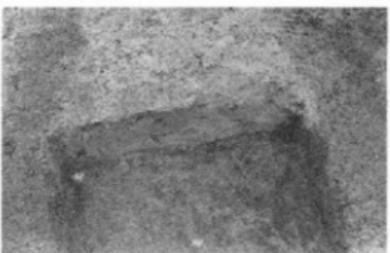


5. 造構検出状況（空中写真）

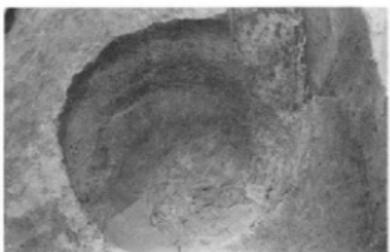
写真図版 第1図



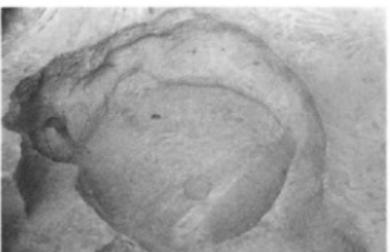
1. D8-11ピット完掘



2. H8-14ピット半掘



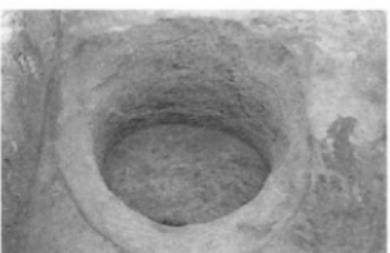
3. C9-1ピット完掘



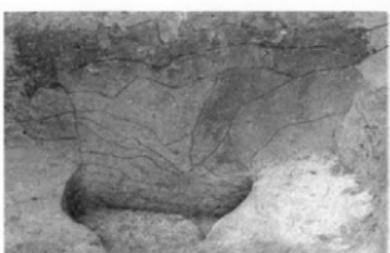
4. F9-1ピット完掘



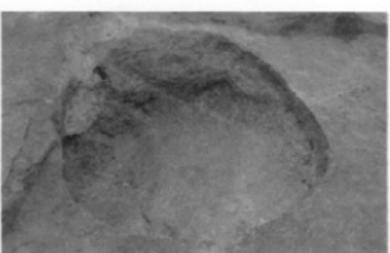
5. F9-2ピット完掘



6. H9-1ピット完掘

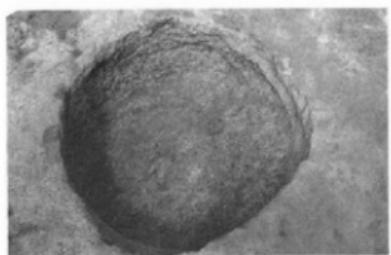


7. A10-1ピット半掘

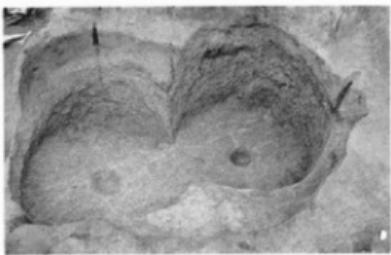


8. B10-1ピット完掘

写真図版 第2図



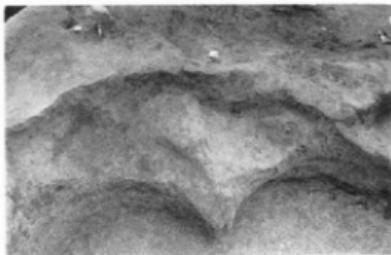
1. C10-1ピット 完掘



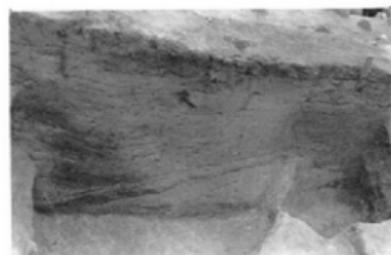
2. D10-1・D10-2ピット 完掘



3. D10-3ピット 完掘



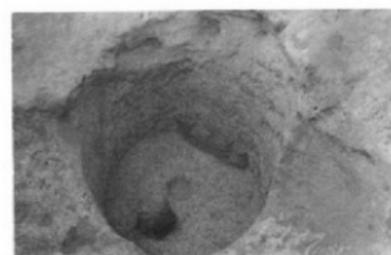
4. D10-4ピット 完掘



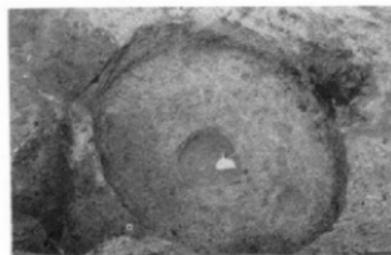
5. F10-1ピット 半掘



6. B11-1ピット 半掘

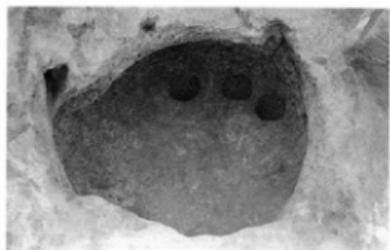


7. C11-1ピット 完掘

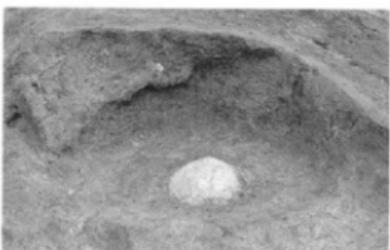


8. C11-2ピット 完掘

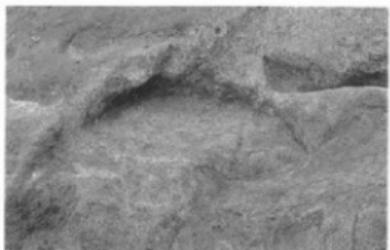
写真図版 第3図



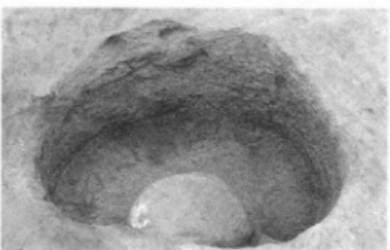
1. D11-1ピット 完 挖



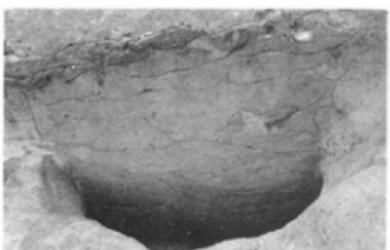
2. E11-2ピット 完 挖



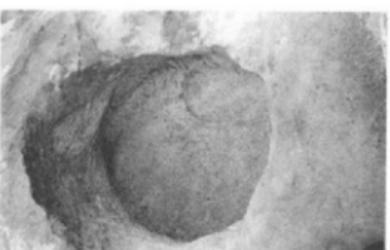
3. E11-3ピット 完 挖



4. G11-1ピット 完 挖



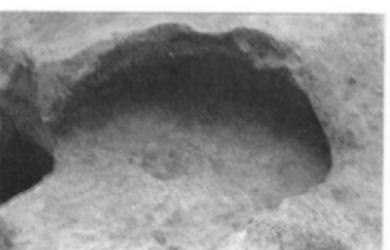
5. B12-1ピット 半 挖



6. B12-2ピット 完 挖

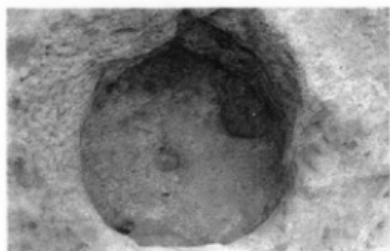


7. C12-1ピット 完 挖

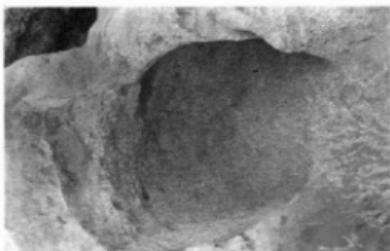


8. C12-2ピット 完 挖

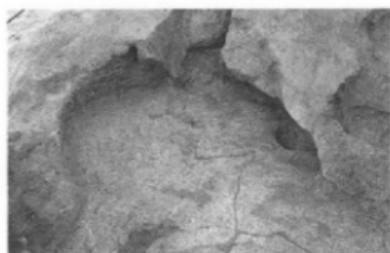
写真図版 第4図



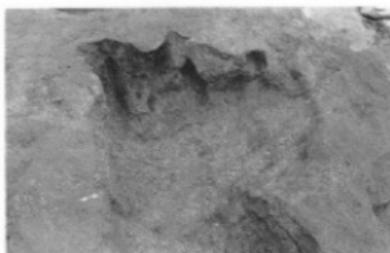
1. C12-3ピット 完掘



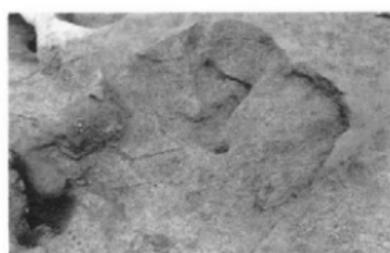
2. C12-4ピット 完掘



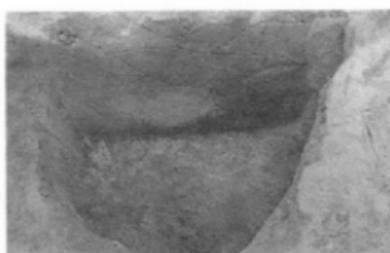
3. F12-1ピット 完掘



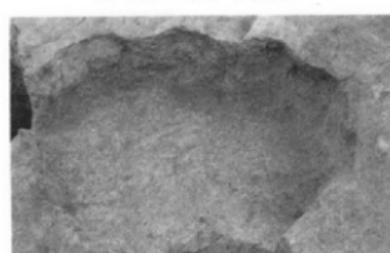
4. F12-2ピット 完掘



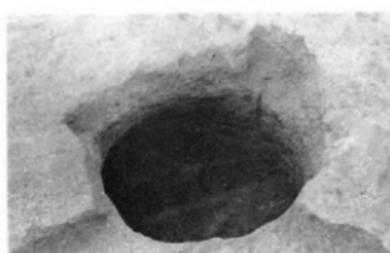
5. G12-1ピット 完掘



6. B13-1ピット 半掘

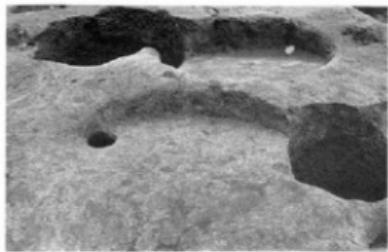


7. C13-1ピット 完掘

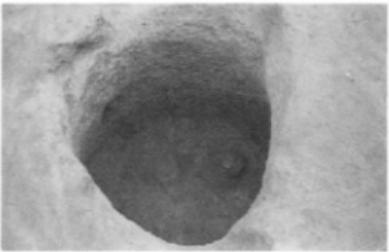


8. C13-2ピット 完掘

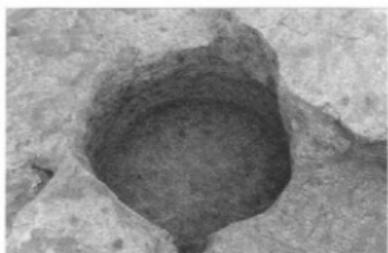
写真図版 第5図



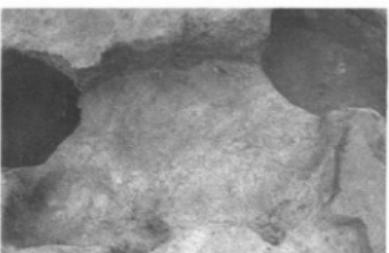
1. D13-1 ピット 完 振



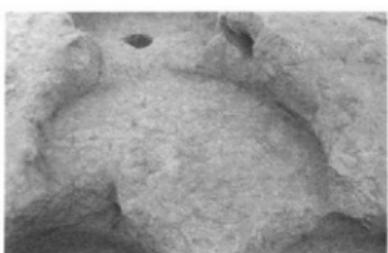
2. D13-2 ピット 完 振



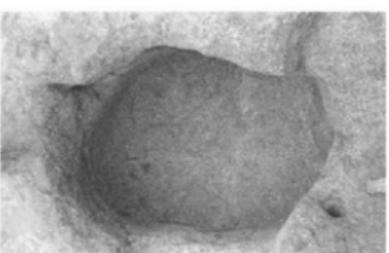
3. E13-1 ピット 完 振



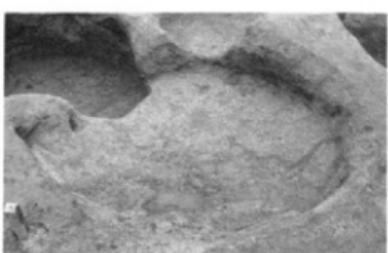
4. E13-2 ピット 完 振



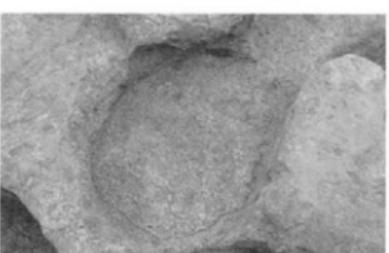
5. F13-1 ピット 完 振



6. F13-2 ピット 完 振



7. F13-3 ピット 完 振

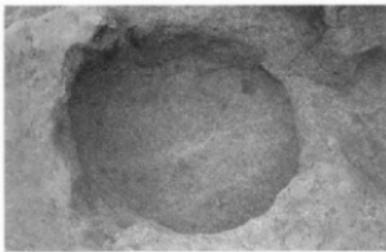


8. F13-4 ピット 完 振

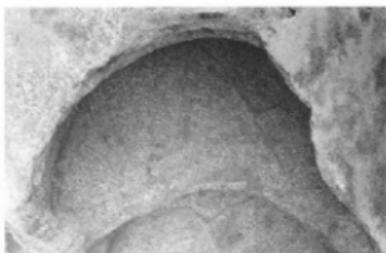
写真図版 第6図



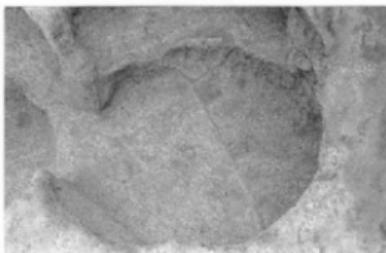
1. G13-1ピット 完 挖



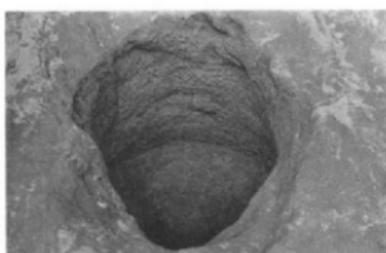
2. G13-2ピット 完 挖



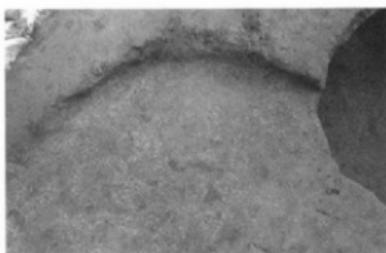
3. G13-3ピット 完 挖



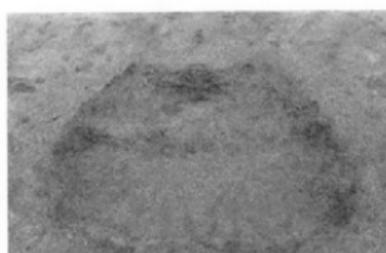
4. G13-4ピット 完 挖



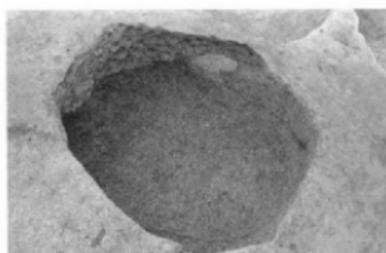
5. C14-1ピット 完 挖



6. D14-1ピット 完 挖

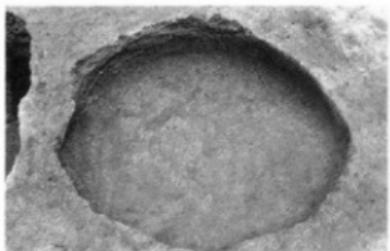


7. D14-2ピット 完 挖

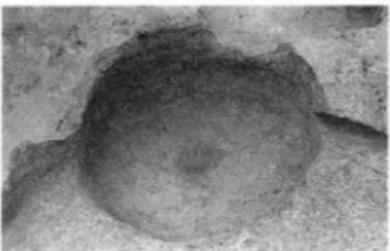


8. E14-1ピット 完 挖

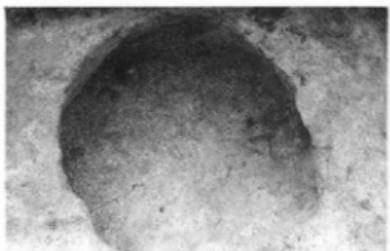
写真図版 第7図



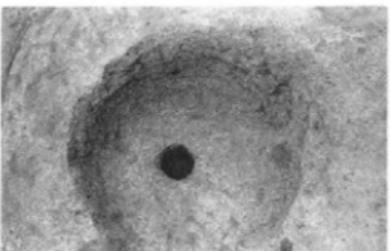
1. E14-2ピット 完 挖



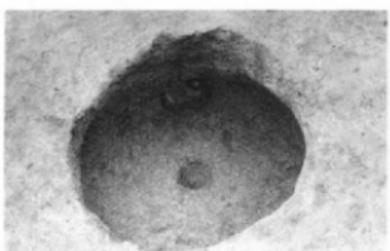
2. F14-1・F14-4ピット 完 挖



3. F14-2ピット 完 挖



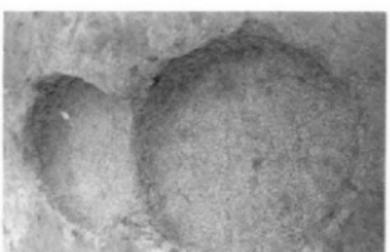
4. F14-3ピット 完 挖



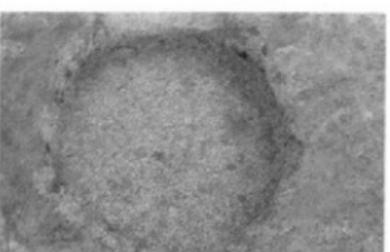
5. F14-5ピット 完 挖



6. G14-1ピット 半 挖

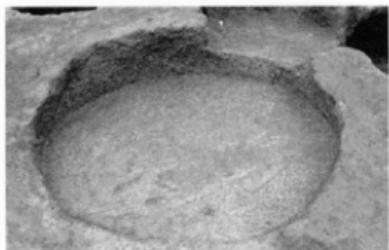


7. D15-1ピット 完 挖

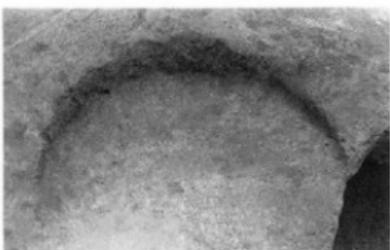


8. D15-2ピット 完 挖

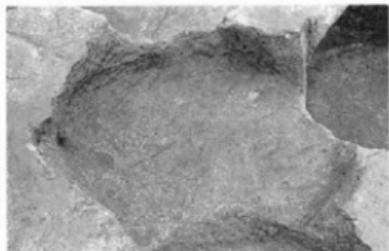
写真図版 第8図



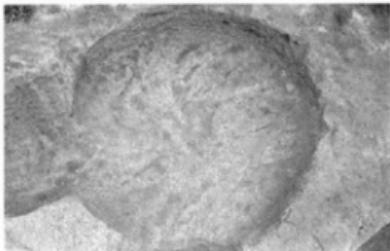
1. E15-1ピット 完 振



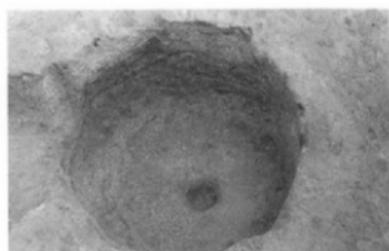
2. E15-2ピット 完 振



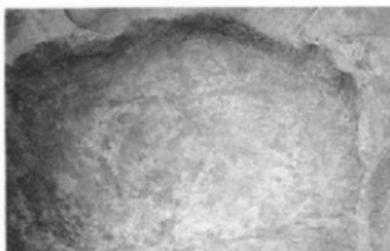
3. E15-3ピット 完 振



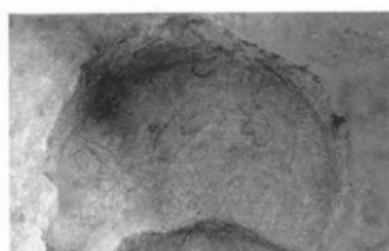
4. F15-1ピット 完 振



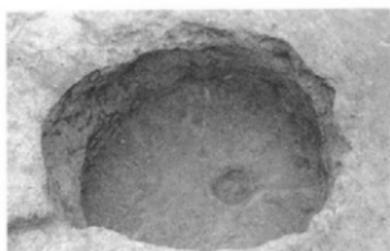
5. F15-2ピット 完 振



6. C16-1ピット 完 振

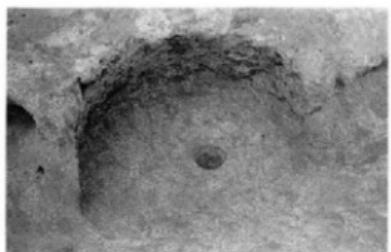


7. D16-1ピット 完 振



8. E16-1ピット 完 振

写真図版 第9図



1. D17-1 ピット 完 挖



2. 柱穴状ピット群



3. E 7 集石



4. E 7 集石 (配石取り上げ後)



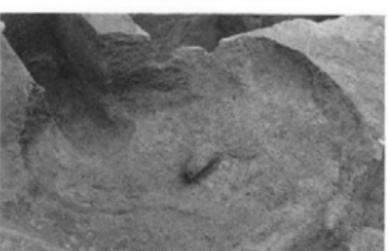
5. 弓矢状の配石稼出状況



6. 弓矢状の配石 (北より)



7. E 9 大型礫



8. I 9-2 焼土遺構

写真図版 第10図

陸前高田市文化財調査報告書第15集

門前貝塚発掘調査概報

県道広田半島線の改修に伴う緊急発掘

印刷 平成3年3月25日

発行 平成3年3月30日

発行 陸前高田市教育委員会

〒029-22 岩手県陸前高田市高田町字館の沖110

TEL 0192-54-2111

印刷 ㈱高田活版

〒029-22 陸前高田市高田町字馬場前114

TEL 0192-55-2694
